

平成 30 年 度

県 政 世 論 調 査

結 果 報 告 書

〈概要版〉

平成 30 年 11 月

福 島 県

目次

	頁
I 調査の概要	
1. 調査の目的.....	1
2. 調査実施概要.....	1
3. 調査項目.....	1
4. 回答者の構成.....	2
II 調査結果の解説	
1. 福島イノベーション・コースト構想について.....	5
(1) 福島イノベーション・コースト構想について知っている取り組み.....	5
(2) 福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取り組み.....	6
2. 復興等に関する情報発信について.....	7
(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報.....	7
(2) 復興状況や新しい取り組みに関する情報の入力先.....	8
(3) 県の広報活動の満足度.....	9
(4) 県外に発信すべき内容.....	11
3. チャレンジふくしま県民運動について.....	12
(1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況.....	12
(2) 心身の健康づくりに対する実践状況.....	13
4. ユニバーサルデザインについて.....	14
(1) 言葉の認知状況.....	14
(2) 導入が必要なもの.....	15
(3) 参加したい活動.....	16
5. 農林水産業について.....	17
(1) 農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいこと.....	17
(2) 農山漁村の役割として期待すること.....	18
6. 水に関する意識について.....	19
(1) 水道の水源の認知状況.....	19
(2) 震災後、水に親しむ場所.....	20
7. 水道水の放射性物質検査について.....	21
(1) 水道水を安心して飲んでいるかの有無.....	21
(2) 今後の「水道水の放射性物質検査」について.....	22

	頁
8. 公共交通について.....	23
(1) 路線バス利用の有無.....	23
(2) 路線バスの利用目的.....	24
(3) 路線バスを利用しない理由.....	25
(4) 利用者の少ない路線バスについて.....	26
9. 地域社会の安全・安心（治安）について.....	27
(1) 現在の治安状況.....	27
(2) 治安状況が良いと思う理由.....	28
(3) 治安状況が悪いと思う理由.....	29
(4) 犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供手段.....	30
(5) 犯罪に関して知りたい情報.....	31
(6) 警察に強化してほしい活動.....	32
(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪.....	34
(8) 身近に感じる不安.....	36
10. 安全で安心な県づくりについて.....	37
(1) 安全・安心の現状.....	37
11. 県総合計画について.....	39
(1) 福島県の現状.....	39

Ⅲ 調査票様式

Ⅳ 過去に実施した県政世論調査項目一覧

●本報告書利用にあたっての注意点

1. 本文及び図表中の回答者の割合は百分比（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。
したがって、四捨五入の結果、個々の比率の合計が100%にならないことがある。また、複数回答の質問では、比率の合計は100%を超えることがある。
2. 図表中の「n」は回答者総数（該当者への質問の場合は該当者数）のことで、100%が何人に相当するかを示す、比率算出の基数である。

I 調査の概要

1. 調査の目的

県政の課題等について県民の意識やニーズを調査し、具体的な政策形成等の基礎的な資料とする。

2. 調査実施概要

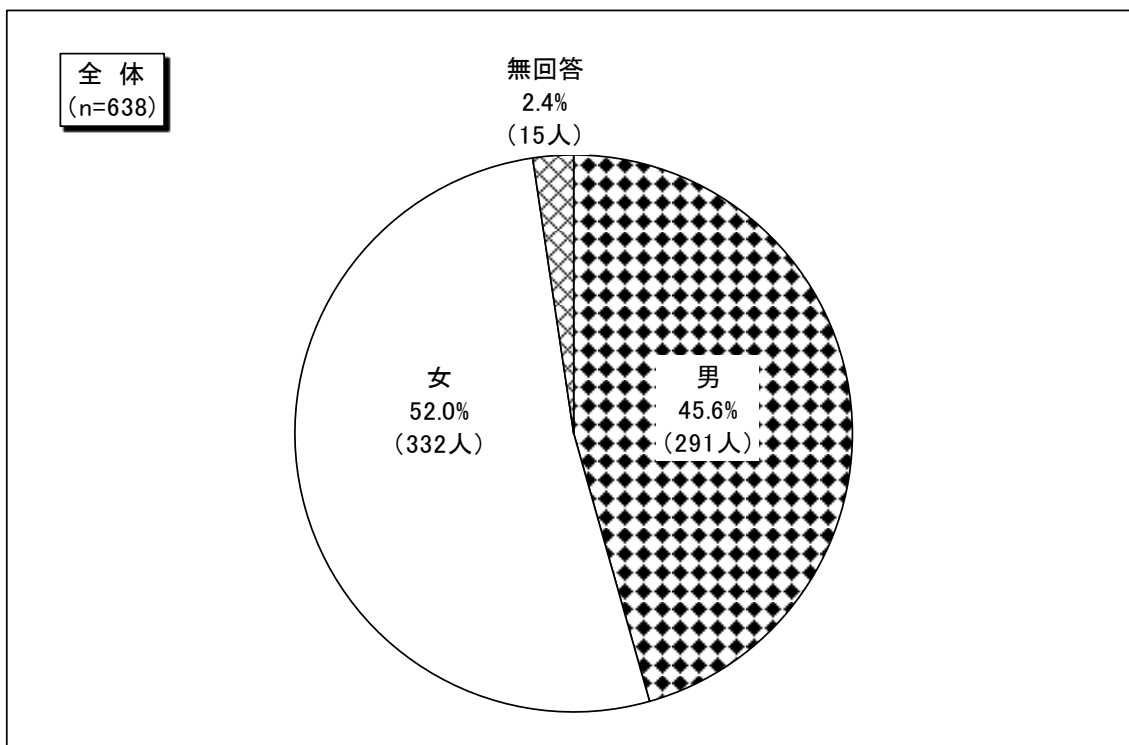
- | | |
|----------|---|
| (1) 調査地域 | 福島県全域（28市町村を抽出） |
| (2) 調査対象 | 満15歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 1,300（人） |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出
第1次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内7地域をそれぞれ「総人口10万人以上の市」「総人口10万人未満の市」「郡部（町村）」の3グループに分け、各グループを1つの層とした。
各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点（市町村及び町丁・大字）を設定した。
第2次抽出：第1次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。 |
| (5) 基準日 | 平成30年8月1日
（抽出にあたっては上記年月日現在の満年齢を基準とした） |
| (6) 調査方法 | 郵送調査（自記式アンケート） |
| (7) 調査期間 | 平成30年8月15日～29日 |
| (8) 回収結果 | 有効回収数638（有効回収率49.1%） |

3. 調査項目

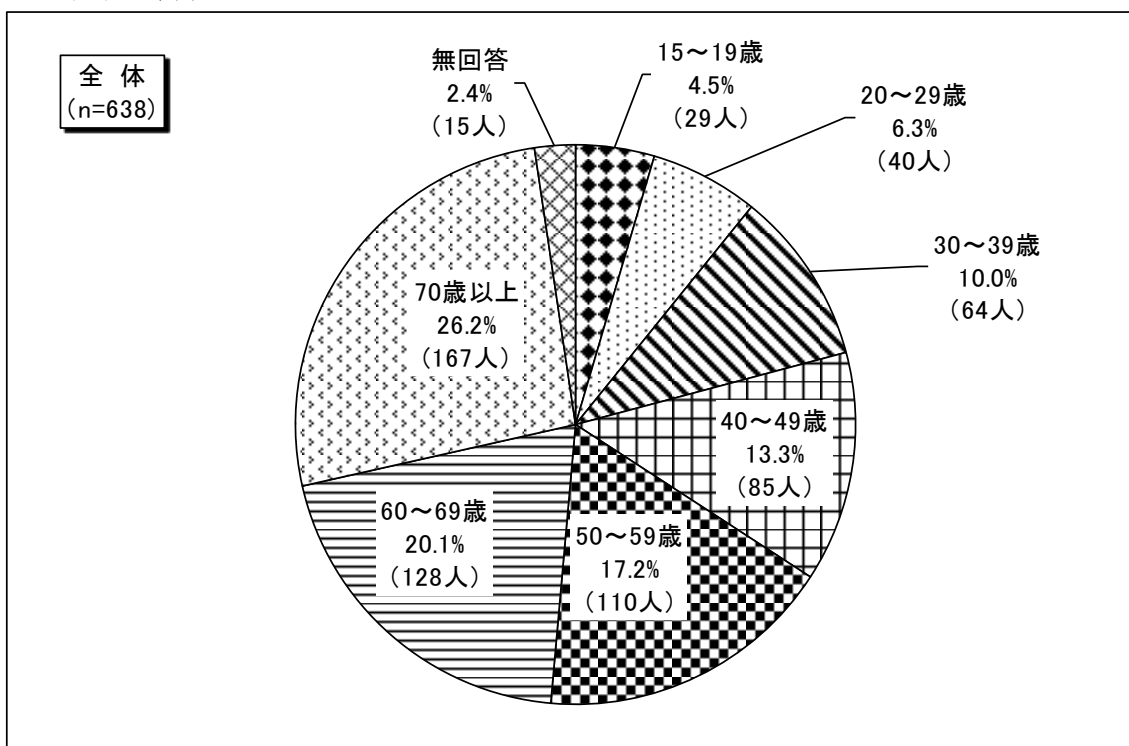
- (1) 『福島イノベーション・コースト構想』について
- (2) 『復興等に関する情報発信』について
- (3) 『チャレンジふくしま県民運動』について
- (4) 『ユニバーサルデザイン』について
- (5) 『農林水産業』について
- (6) 『水に関する意識』について
- (7) 『水道水の放射性物質検査』について
- (8) 『公共交通』について
- (9) 『地域社会の安全・安心（治安）』について
- (10) 『安全で安心な県づくり』について
- (11) 『県総合計画』について

4. 回答者の構成

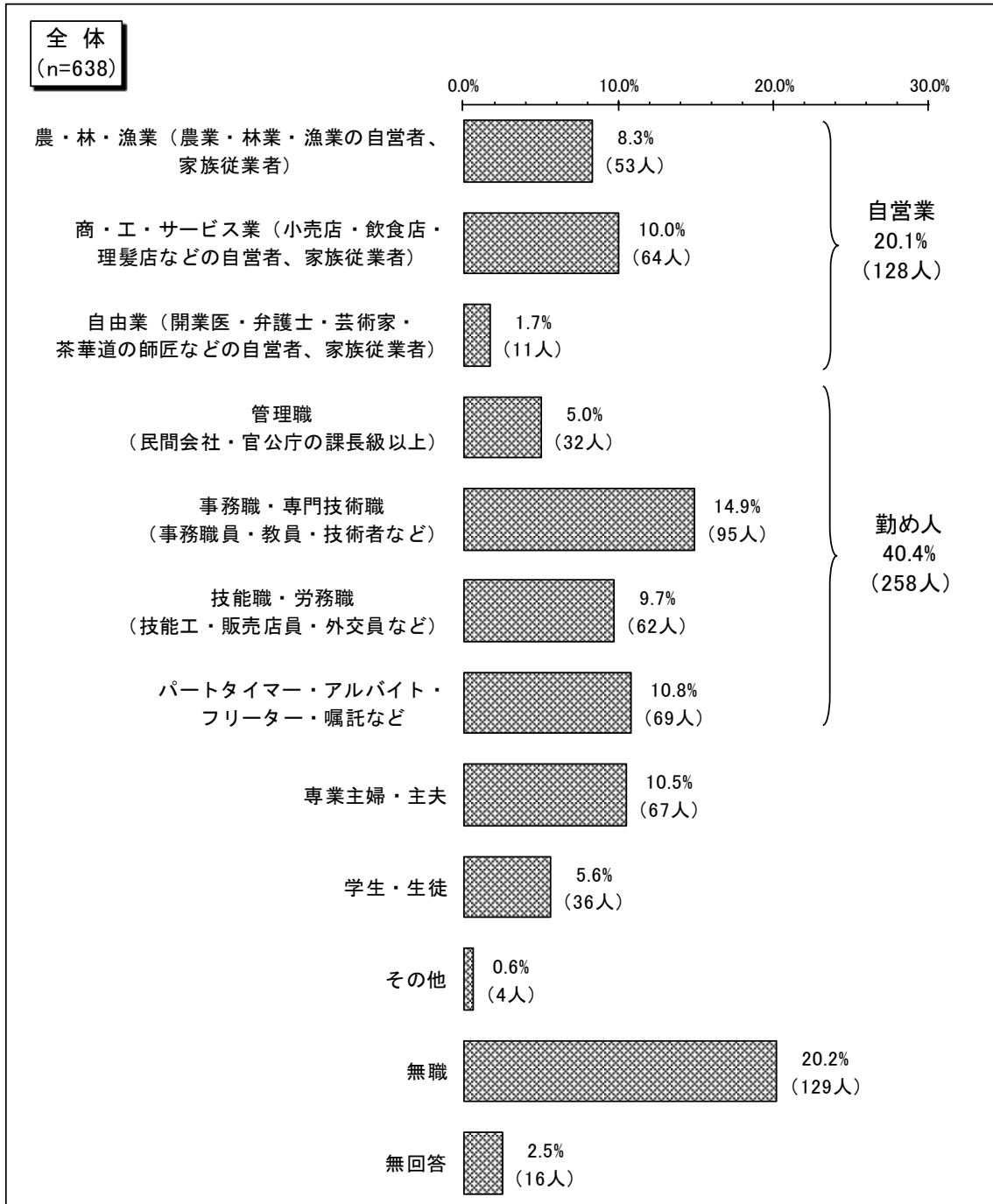
(1) 性別



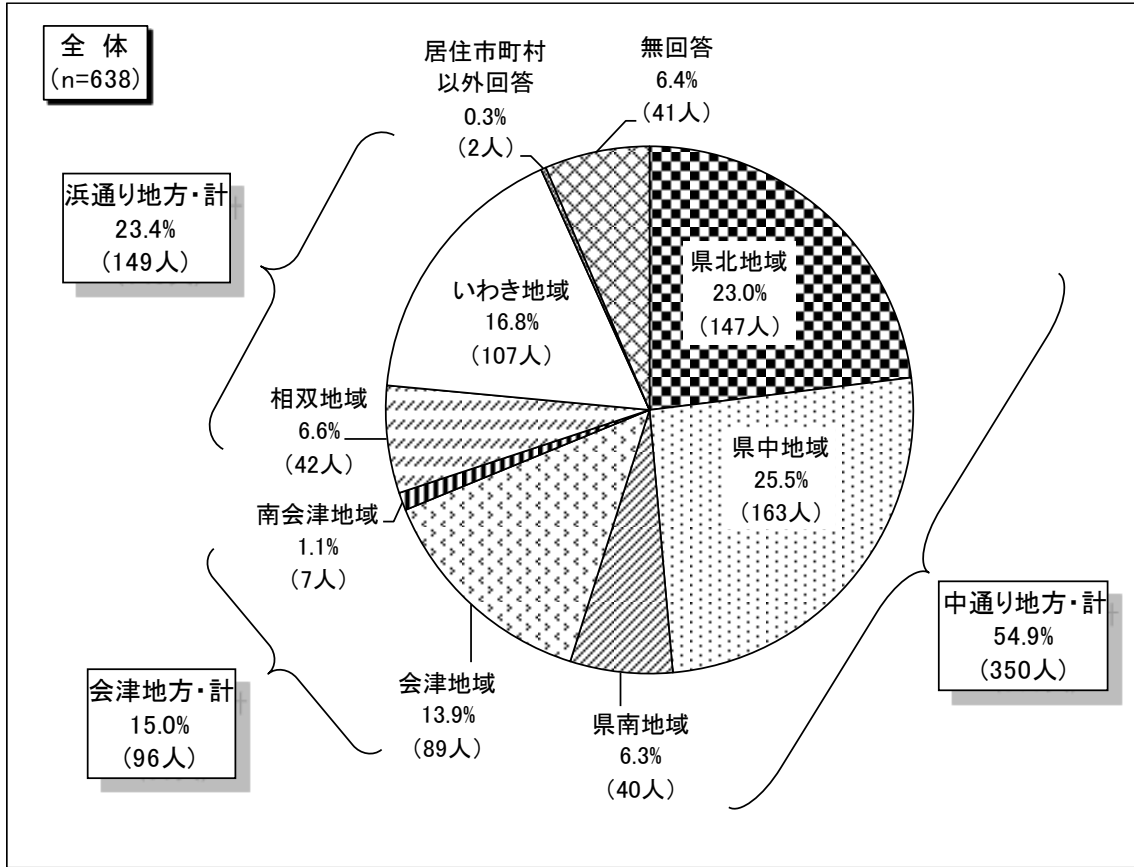
(2) 年齢



(3) 職業



(4) 居住地域



市町村別回答者数

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
中通り 地方	県北地域	福島市	81	12.7
		二本松市	19	3.0
		伊達市	16	2.5
		本宮市	12	1.9
		国見町	12	1.9
		大玉村	7	1.1
		郡山市	103	16.1
	県中地域	須賀川市	16	2.5
		田村市	11	1.7
		石川町	10	1.6
		古殿町	13	2.0
		小野町	10	1.6
	県南地域	白河市	18	2.8
		泉崎村	10	1.6
棚倉町		5	0.8	
鮫川村		7	1.1	

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
会津 地方	会津地域	会津若松市	45	7.1
		喜多方市	18	2.8
		磐梯町	6	0.9
		会津坂下町	11	1.7
		会津美里町	9	1.4
		A 下郷町	7	1.1
	浜通り地方	相双地域	相馬市	12
	南相馬市	13	2.0	
	富岡町	5	0.8	
	双葉町	2	0.3	
	新地町	10	1.6	
	B いわき市	107	16.8	
	居住市町村以外回答	2	0.3	
	居住市町村別無回答	41	6.4	
	全体	638	100.0	

A 南会津地域
B いわき地域

Ⅱ 調査結果の解説

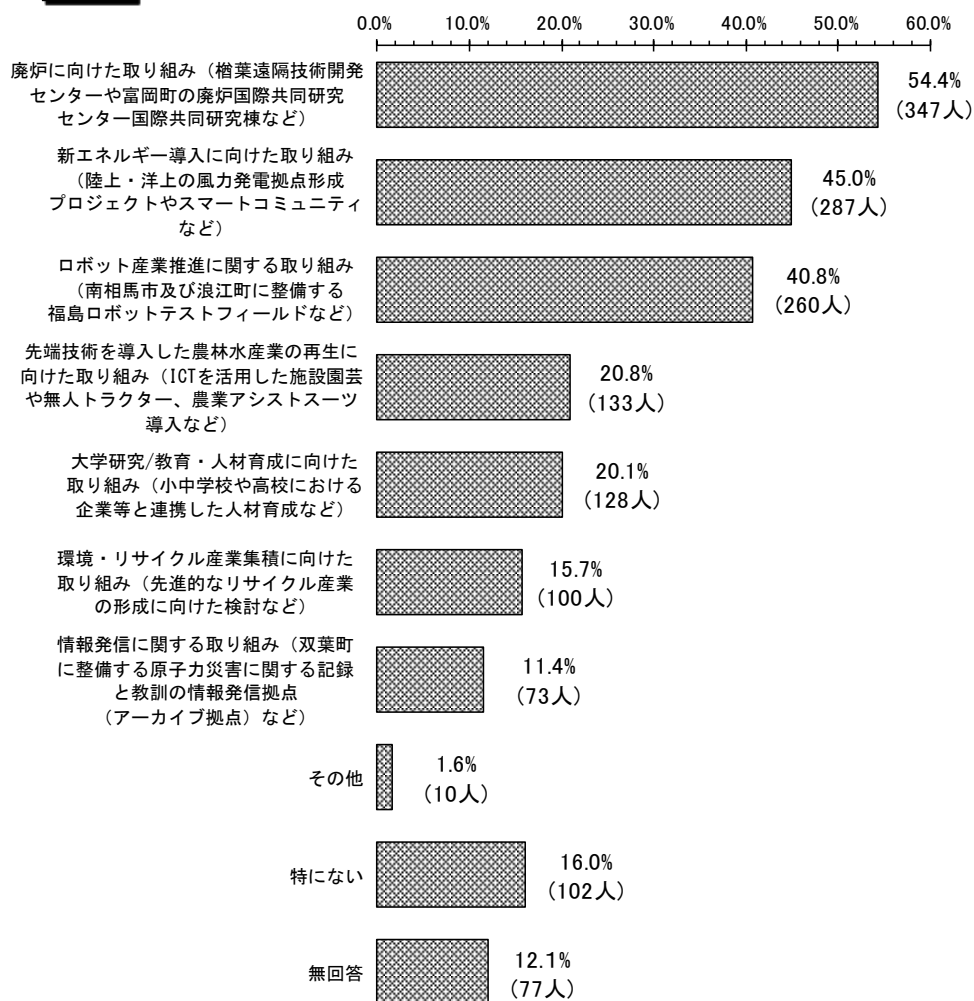
1. 福島イノベーション・コースト構想について

(1) 福島イノベーション・コースト構想について知っている取り組み

問1 福島イノベーション・コースト構想について、あなたはどのような取り組みを知っていますか。

あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=638)



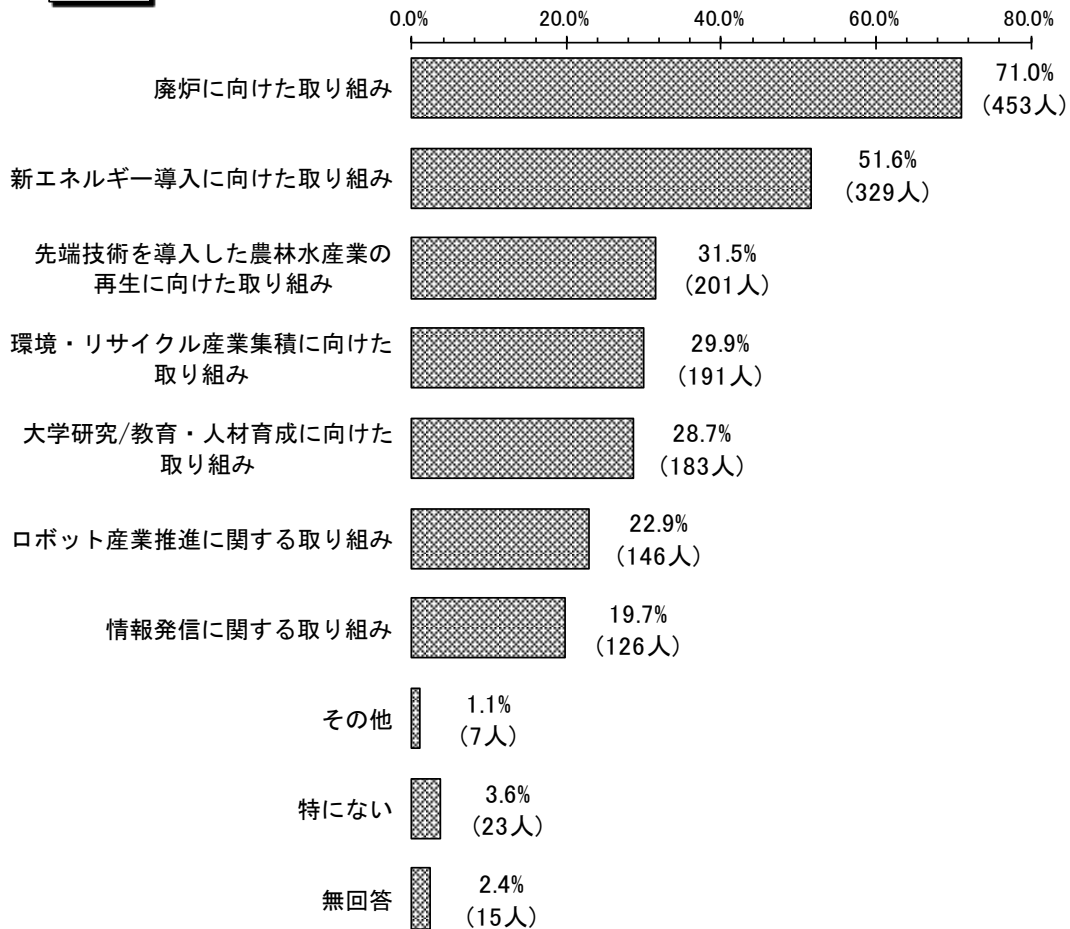
福島イノベーション・コースト構想について知っている取り組みは「廃炉に向けた取り組み(櫛葉遠隔技術開発センターや富岡町の廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟など)」(54.4%)が最も多く、5割強となっている。以下、「新エネルギー導入に向けた取り組み(陸上・洋上の風力発電拠点形成プロジェクトやスマートコミュニティなど)」(45.0%)と「ロボット産業推進に関する取り組み(南相馬市及び浪江町に整備する福島ロボットテストフィールドなど)」(40.8%)が4割台となっている。

(2) 福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取り組み

問2 今後、福島イノベーション・コースト構想を着実に推進し、県内全域の復興・創生にもつなげていくために、県はどのような取り組みを強化していけばよいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=638)

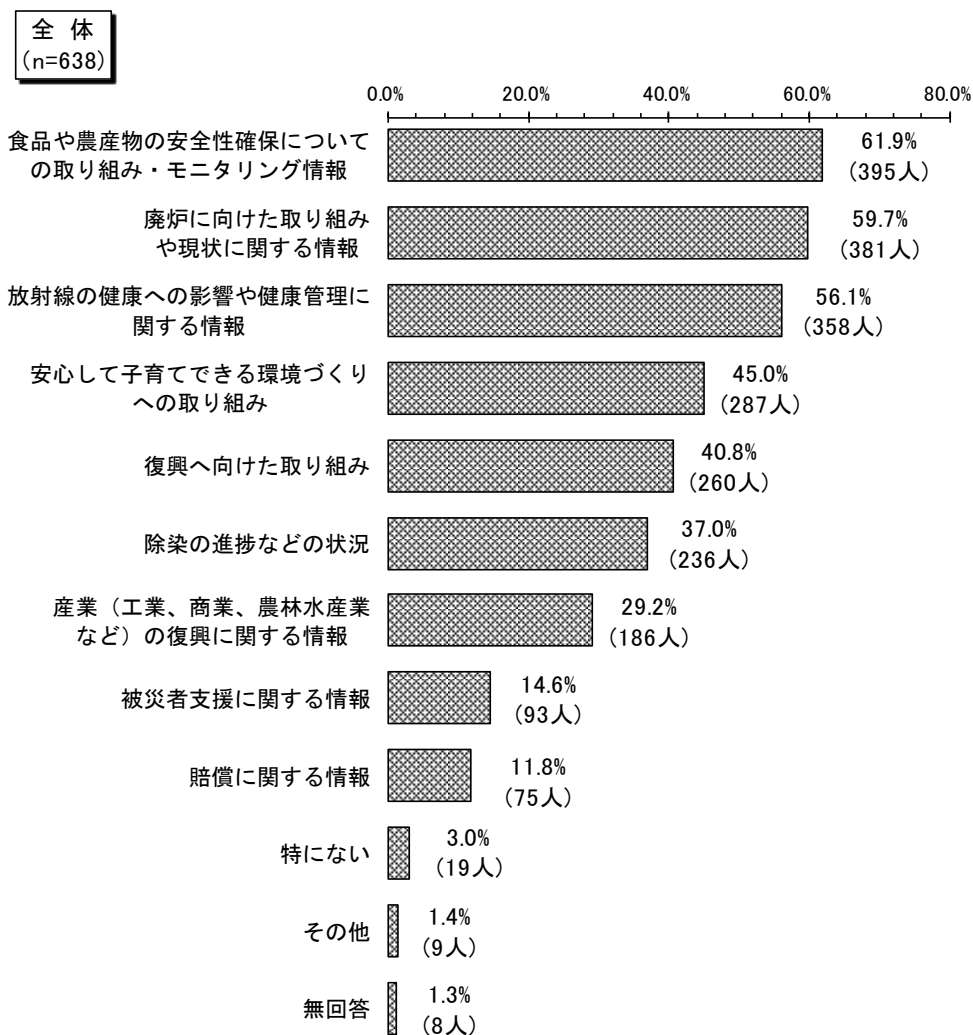


福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取り組みについては、「廃炉に向けた取り組み」(71.0%)が最も多く、約7割となっている。以下、「新エネルギー導入に向けた取り組み」(51.6%)が5割台、「先端技術を導入した農林水産業の再生に向けた取り組み」(31.5%)が3割台、「環境・リサイクル産業集積に向けた取り組み」(29.9%)、「大学研究/教育・人材育成に向けた取り組み」(28.7%)と「ロボット産業推進に関する取り組み」(22.9%)が2割台となっている。

2. 復興等に関する情報発信について

(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報

問3 震災・原発事故や復興について、あなたはどのような情報を知りたいですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

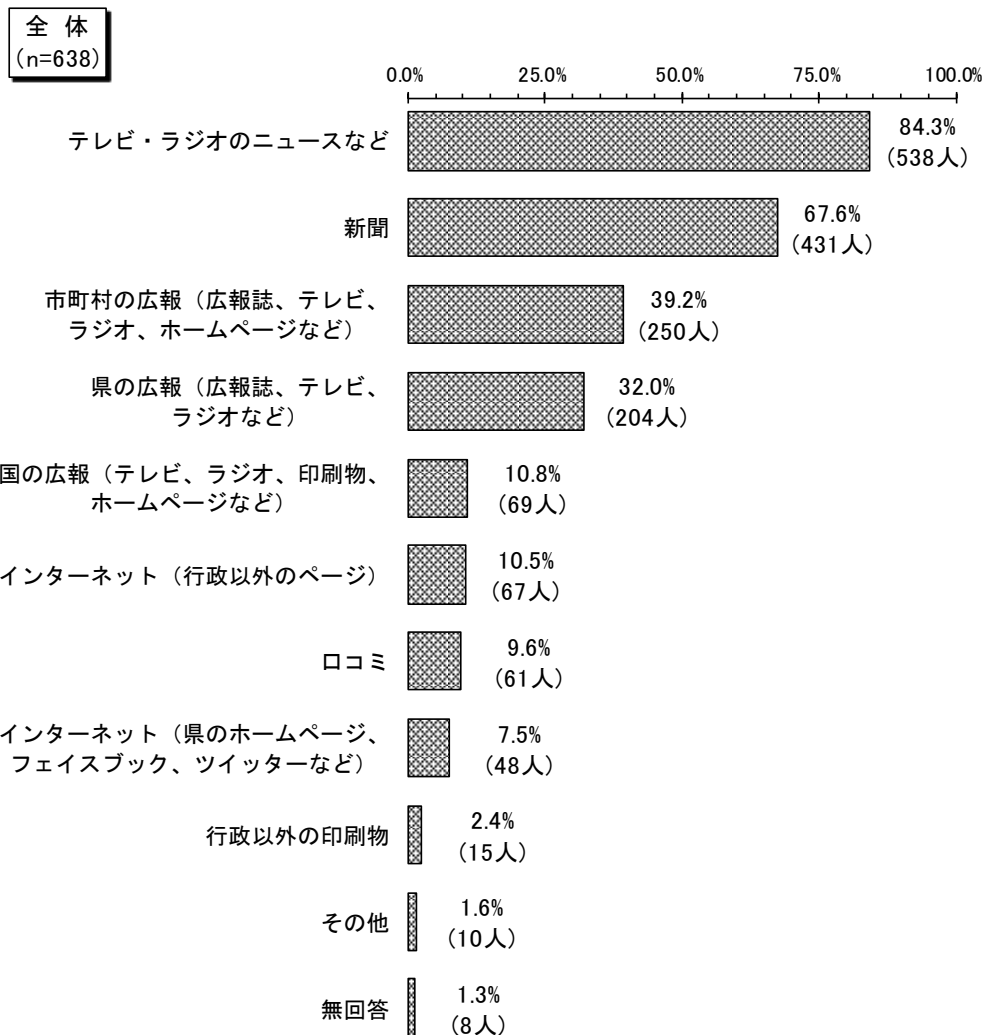


震災・原発事故や復興について知りたい情報は、「食品や農産物の安全性確保についての取り組み・モニタリング情報」(61.9%)と「廃炉に向けた取り組みや現状に関する情報」(59.7%)が多く、6割前後となっている。以下、「放射線の健康への影響や健康管理に関する情報」(56.1%)が5割台、「安心して子育てできる環境づくりへの取り組み」(45.0%)と「復興へ向けた取り組み」(40.8%)が4割台、「除染の進捗などの状況」(37.0%)が3割台、「産業(工業、商業、農林水産業など)の復興に関する情報」(29.2%)が約3割で続いている。

(2) 復興状況や新しい取り組みに関する情報の入手先

問4 本県の復興の状況や新しい取り組みに関する情報については主に何で入手していますか。

あてはまるものにもいくつか○をつけてください。(複数回答可)



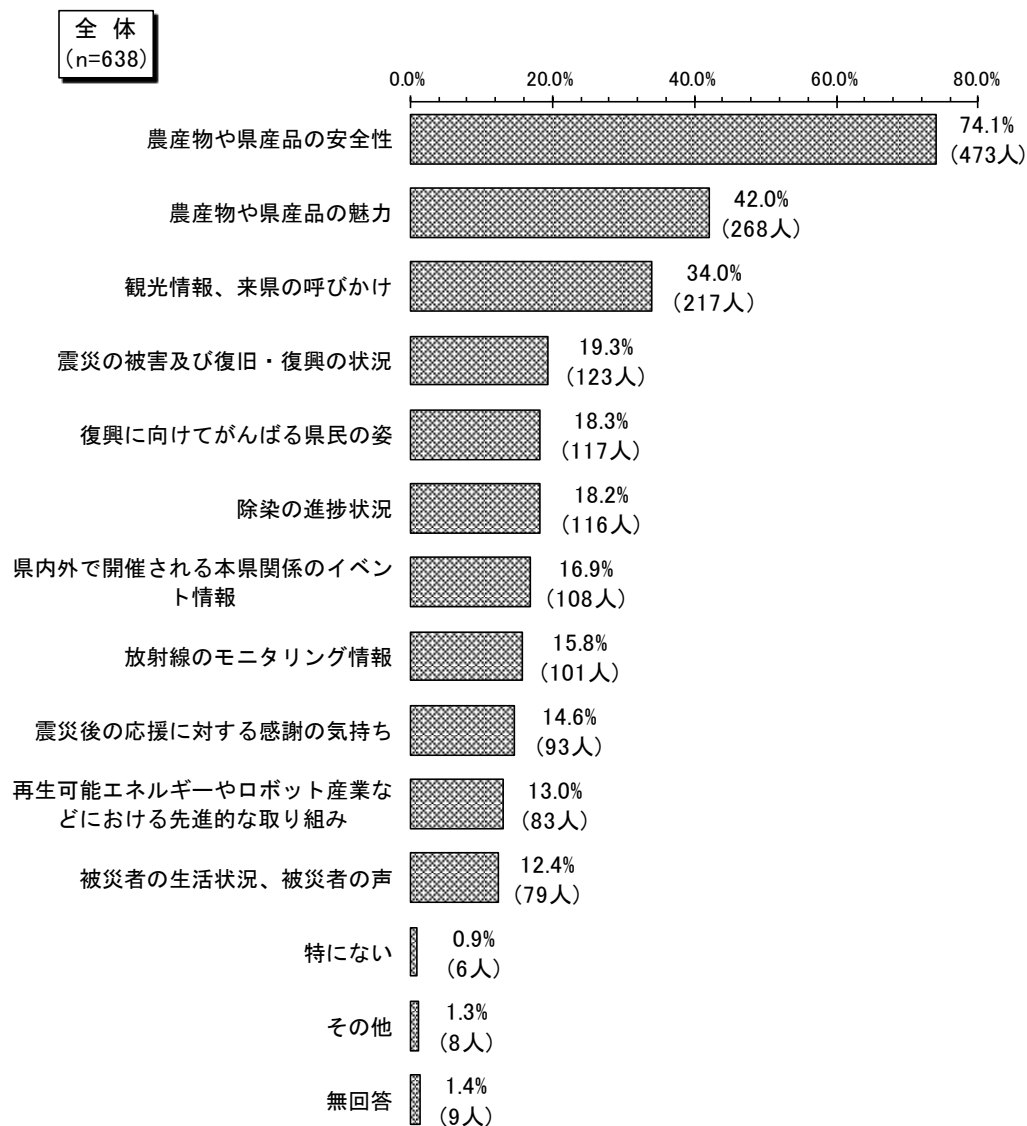
復興の状況や新しい取り組みに関する情報の入手先は、「テレビ、ラジオのニュースなど」(84.3%)が最も多く、8割強となっている。以下、「新聞」(67.6%)が6割台、「市町村の広報(広報誌、テレビ、ラジオ、ホームページなど)」(39.2%)と「県の広報(広報誌、テレビ、ラジオなど)」(32.0%)が3割台、「国の広報(テレビ、ラジオ、印刷物、ホームページなど)」(10.8%)、「インターネット(行政以外のページ)」(10.5%)と「ロコミ」(9.6%)が約1割となっている。

県の広報活動に「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足している』計の割合をみると、〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（53.2%）が最も多く、5割台となっている。以下、〈広報誌『つながる Fukushima ゆめだより』〉（41.1%）が4割台、〈テレビ『キビタン GO!（福島テレビ：毎週水曜日 20:54～20:58）』〉（24.3%）が2割台、〈テレビ『Let's チャレンジ! Fukushima（福島放送：毎週金曜日 19:56～20:00）』〉（19.3%）、〈ラジオ『キビタンスマイル（ふくしま FM：毎週月～金曜日 17:30～17:35）』〉（11.4%）と〈インターネット『県ホームページ』〉（11.1%）が1割台となっている。

一方、「満足していない」と「どちらかといえば満足していない」を合わせた『満足していない』計の割合は、〈広報誌『つながる Fukushima ゆめだより』〉（24.6%）が2割強で最も高くなっている。次いで、〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（20.8%）が約2割で続いている。以下、〈テレビ『キビタン GO!（福島テレビ：毎週水曜日 20:54～20:58）』〉（17.8%）、〈テレビ『Let's チャレンジ! Fukushima（福島放送：毎週金曜日 19:56～20:00）』〉（16.3%）となっている。

(4) 県外に発信すべき内容

問6 あなたは、県外の方に、福島県のどのようなことを伝えるべきだと思いますか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

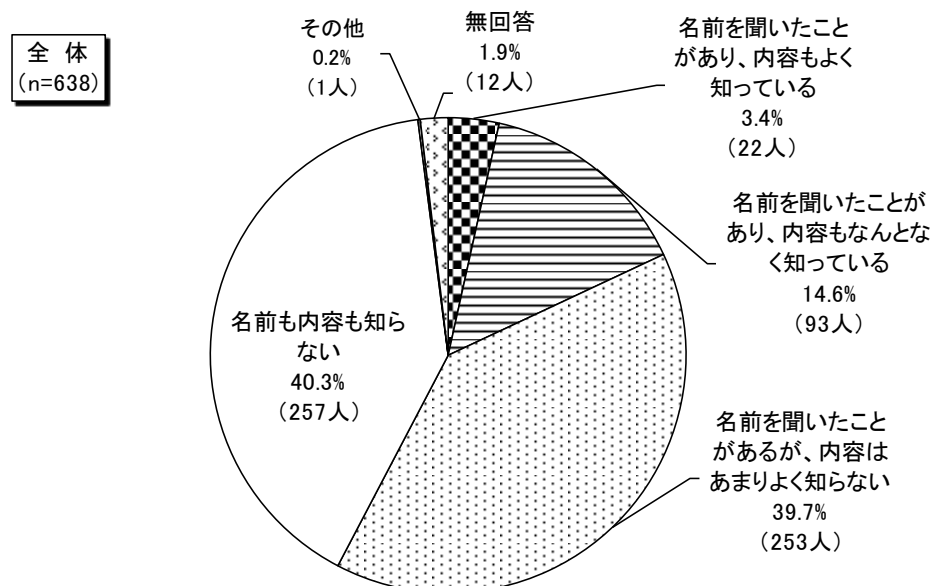


福島県の現状について、県外に伝えたいことは、「農産物や県産品の安全性」(74.1%)が最も多く、7割台となっている。以下、「農産物や県産品の魅力」(42.0%)が4割台、「観光情報、来県の呼びかけ」(34.0%)が3割台、「震災の被害及び復旧・復興の状況」(19.3%)、「復興に向けてがんばる県民の姿」(18.3%)、「除染の進捗状況」(18.2%)、「県内外で開催される本県関係のイベント情報」(16.9%)、「放射線のモニタリング情報」(15.8%)、「震災後の応援に対する感謝の気持ち」(14.6%)、「再生可能エネルギーやロボット産業などにおける先進的な取り組み」(13.0%)、「被災者の生活状況、被災者の声」(12.4%)が1割台で続いている。

3. チャレンジふくしま県民活動について

(1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況

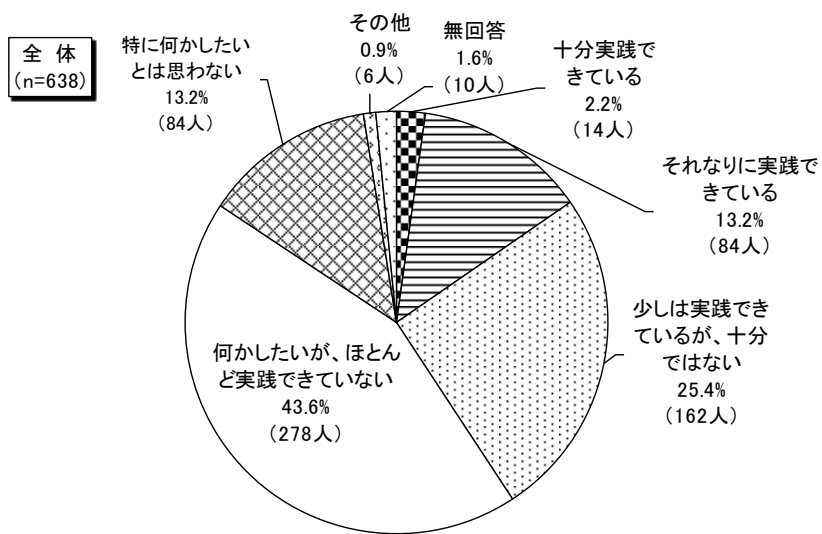
問7 「健康」をテーマとしたチャレンジふくしま県民運動を知っていますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



チャレンジふくしま県民運動の認知状況については、「名前も内容も知らない」(40.3%)と「名前を聞いたことがあるが、内容はあまりよく知らない」(39.7%)が約4割となっている。「名前を聞いたことがあり、内容もなんとなく知っている」が14.6%、「名前を聞いたことがあり、内容もよく知っている」が3.4%となっている。

(2) 心身の健康づくりに対する実践状況

問8 運動や文化活動など、最近の心身の健康づくりに関する実践状況について、最も当てはまるもの1つに○をつけてください。



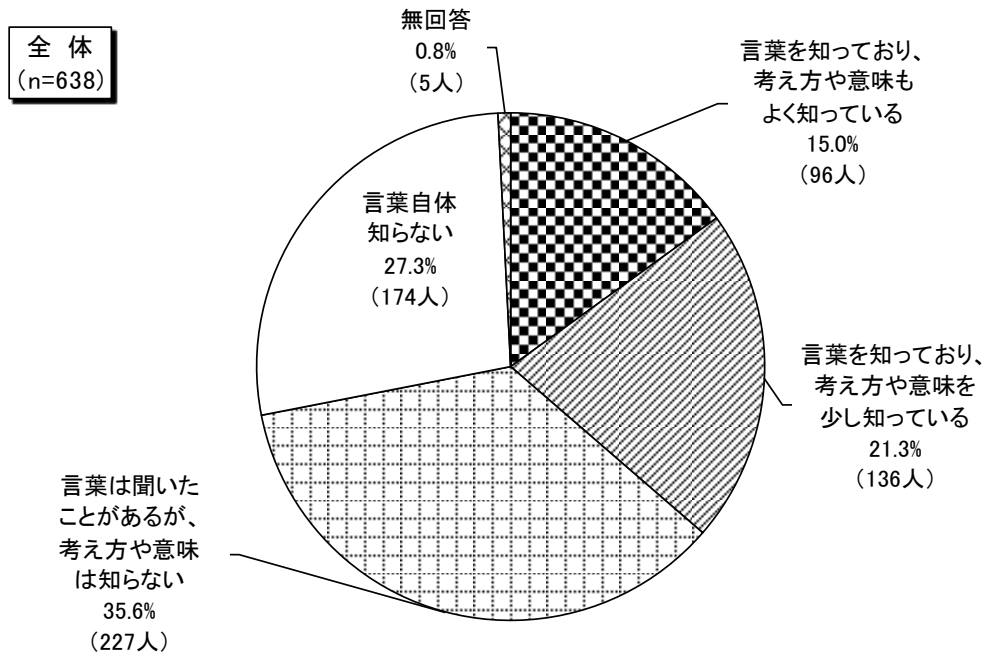
心身の健康づくりに対する実践状況については、「何かしたいが、ほとんど実践できていない」(43.6%)が最も多く、4割台となっている。以下、「少しは実践できているが、十分ではない」(25.4%)、「それなりに実践できている」(13.2%)、「十分に実践できている」(2.2%)となっている。

一方、「特に何かしたいとは思わない」が13.2%となっている。

4. ユニバーサルデザインについて

(1) 言葉の認知状況

問9 あなたは、ユニバーサルデザインという言葉について知っていますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

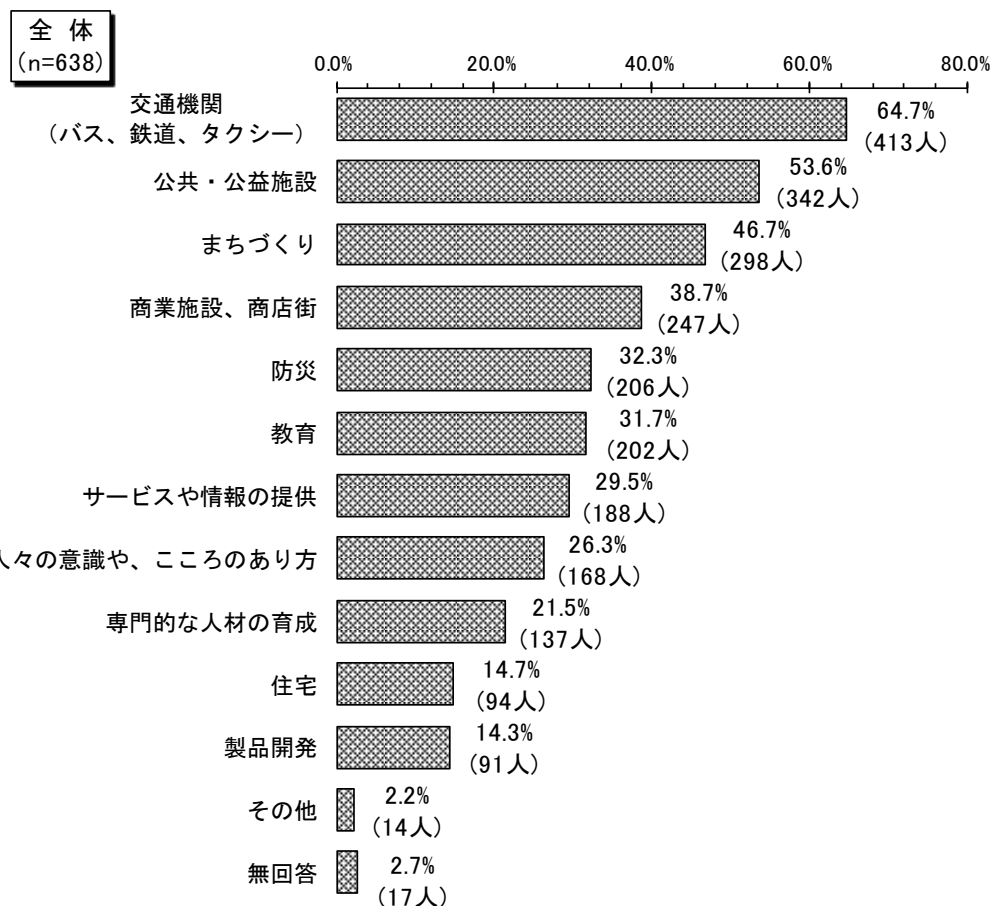


ユニバーサルデザインという言葉について、「言葉は聞いたことがあるが、考え方や意味は知らない」(35.6%)の割合が最も多く、4割弱となっている。以下、「言葉自体知らない」(27.3%)、「言葉を覚えており、考え方や意味を少し知っている」(21.3%)、「言葉を覚えており、考え方や意味もよく知っている」(15.0%)となっている。

(2) 導入が必要なもの

問10 あなたが、県内で、ユニバーサルデザインの考え方を導入することが必要だと考えるのはどれですか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)



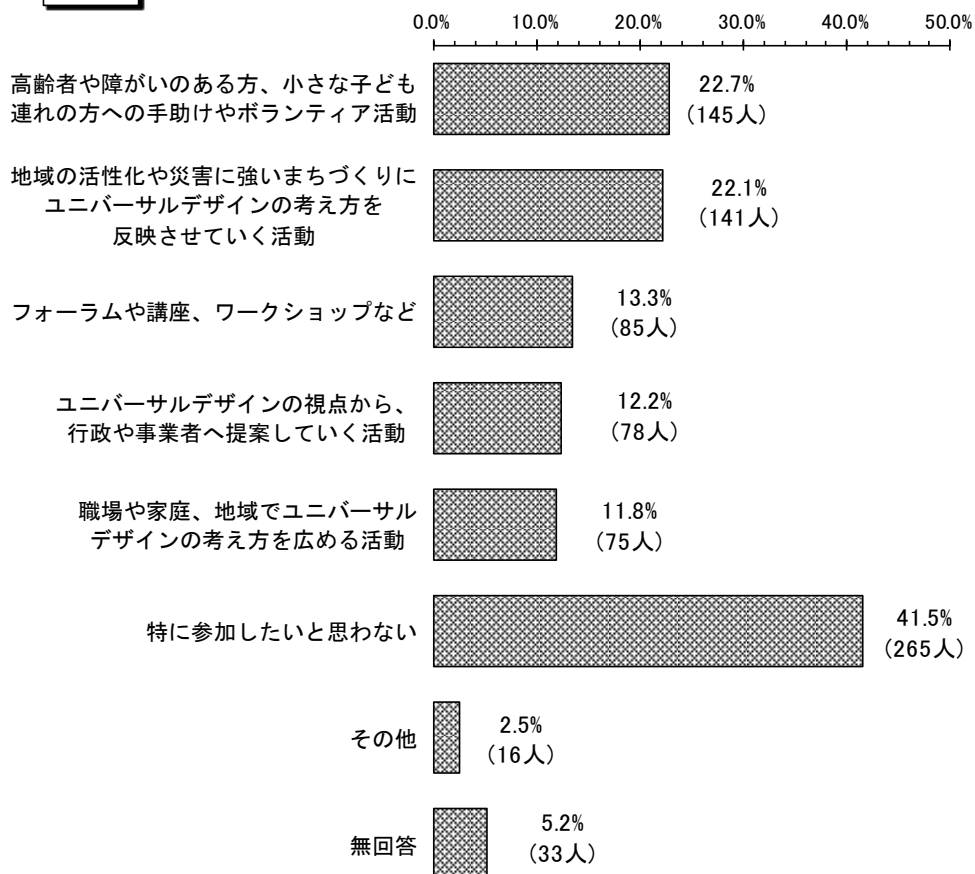
ユニバーサルデザインの考え方の導入が必要なものとしては、「交通機関 (バス、鉄道、タクシー)」(64.7%)の割合が最も多く、6割台となっている。以下、「公共・公益施設」(53.6%)が5割台、「まちづくり」(46.7%)が4割台、「商業施設、商店街」(38.7%)、「防災」(32.3%)、「教育」(31.7%)が3割台、「サービスや情報の提供」(29.5%)、「人々の意識や、こころのあり方」(26.3%)、「専門的な人材の育成」(21.5%)が2割台となっている。

(3) 参加したい活動

問 11 あなたは、ユニバーサルデザインに関する活動で、参加したいものがありますか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=638)



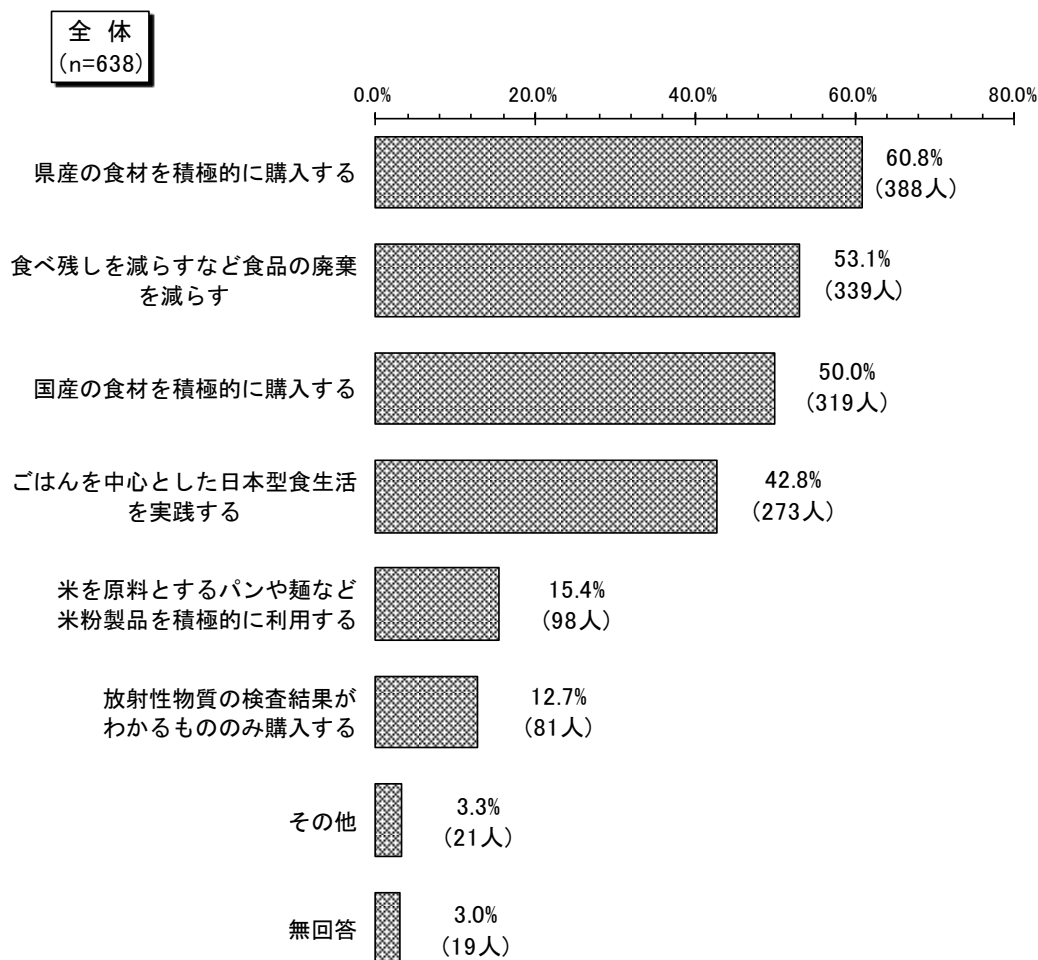
ユニバーサルデザインに関する活動で参加したいものとしては、「高齢者や障がいのある方、小さな子ども連れの方への手助けやボランティア活動」(22.7%)、「地域の活性化や災害に強いまちづくりにユニバーサルデザインの考え方を反映させていく活動」(22.1%)が2割台と高くなっている。以下、「フォーラムや講座、ワークショップなど」(13.3%)、「ユニバーサルデザインの視点から、行政や事業者へ提案していく活動」(12.2%)、「職場や家庭、地域でユニバーサルデザインの考え方を広める活動」(11.8%)が1割台となっている。

一方、「特に参加したいと思わない」(41.5%)の割合は、約4割となっている。

5. 農林水産業について

(1) 農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいこと

問12 震災後、あなたが農林水産物の購入や食生活において、以下の行動のうち実践しているまたは実践したいと考えていることはありますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

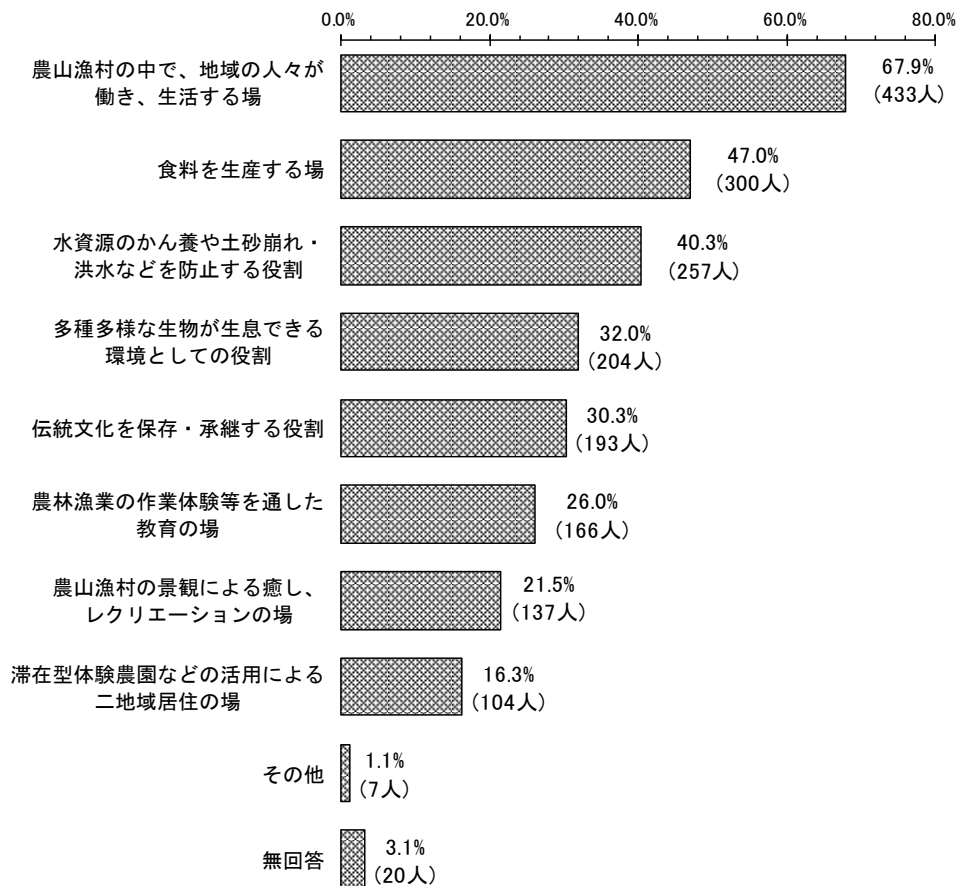


震災後、農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいことは、「県産の食材を積極的に購入する」(60.8%)が多く、約6割となっている。以下、「食べ残しを減らすなど食品の廃棄を減らす」(53.1%)と「国産の食材を積極的に購入する」(50.0%)が5割台、「ごはんを中心とした日本型食生活を実践する」(42.8%)が4割台となっている。

(2) 農山漁村の役割として期待すること

問13 あなたが本県の農山漁村の役割として期待することは何ですか。
 あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
 (n=638)



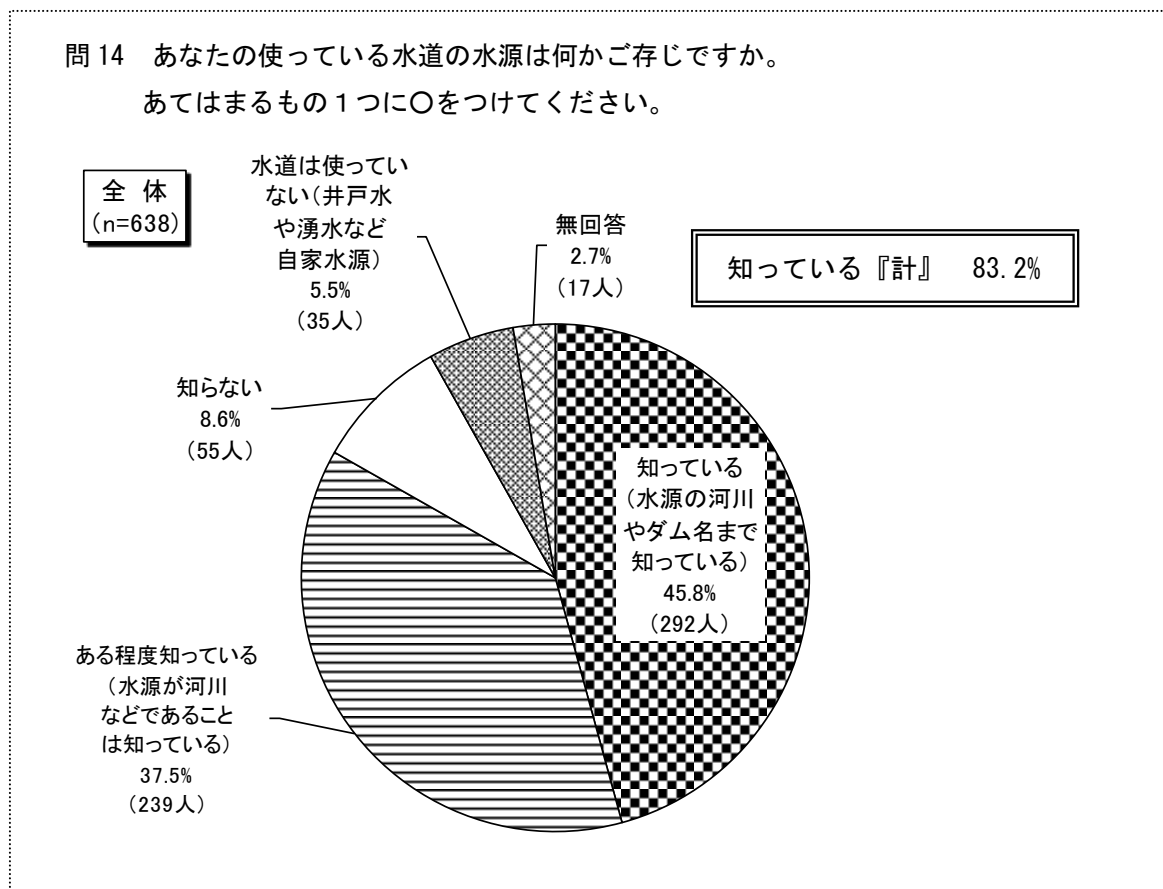
農山漁村の役割として期待することは、「農山漁村の中で、地域の人々が働き、生活する場」(67.9%)が最も多く、6割を超えている。以下、「食料を生産する場」(47.0%)と「水資源のかん養や土砂崩れ・洪水などを防止する役割」(40.3%)が4割台、「多種多様な生物が生息できる環境としての役割」(32.0%)と「伝統文化を保存・承継する役割」(30.3%)が3割台、「農林漁業の作業体験等を通じた教育の場」(26.0%)と「農山漁村の景観による癒し、レクリエーションの場」(21.5%)が2割台となっている。

6. 水に関する意識について

(1) 水道の水源の認知状況

問 14 あなたの使っている水道の水源は何かご存じですか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

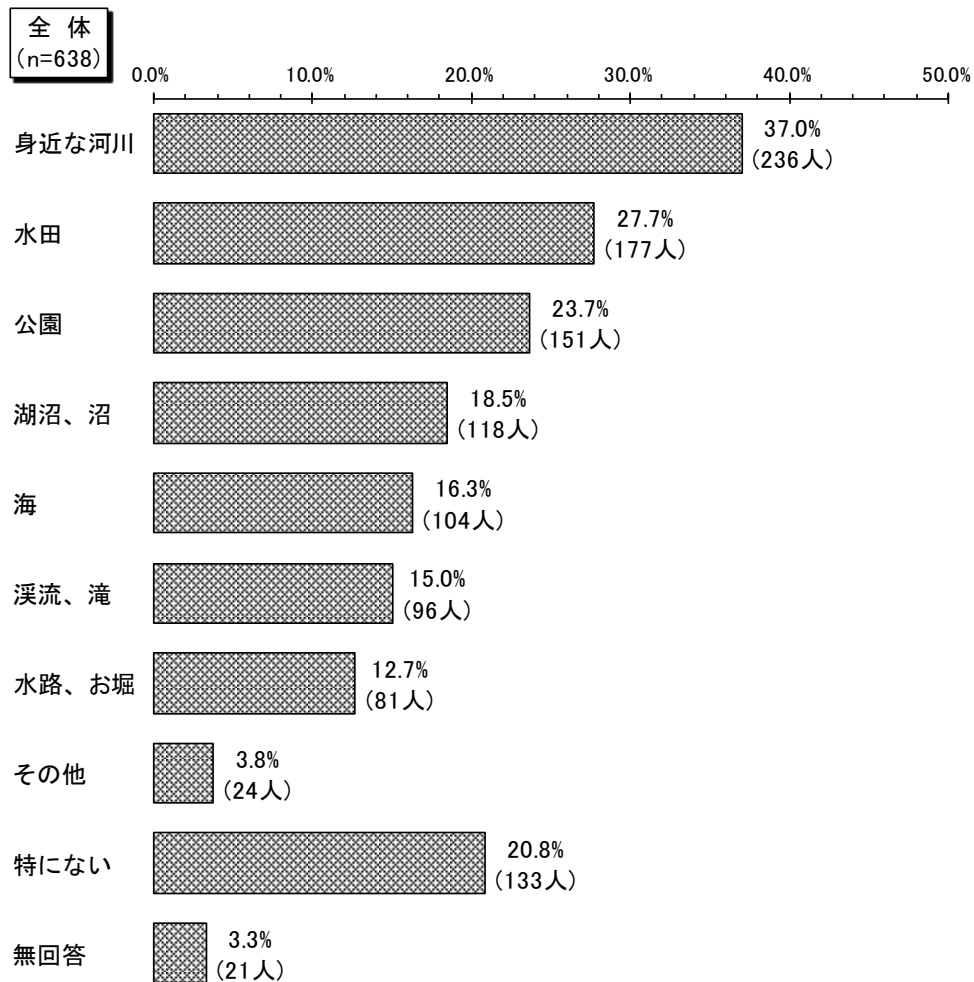


水道の水源の認知状況は、「知っている (水源の河川やダム名まで知っている)」(45.8%)の割合が最も多く、4割台になっている。これに「ある程度知っている (水源が河川などであることは知っている)」(37.5%)を合わせた『知っている』計の割合は83.2%となり、8割を超えている。

(2) 震災後、水に親しむ場所

問 15 あなたは、震災後、どのような場所で水に触れて水と親しんでいますか
(水遊びや魚釣りなどを含む)。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)



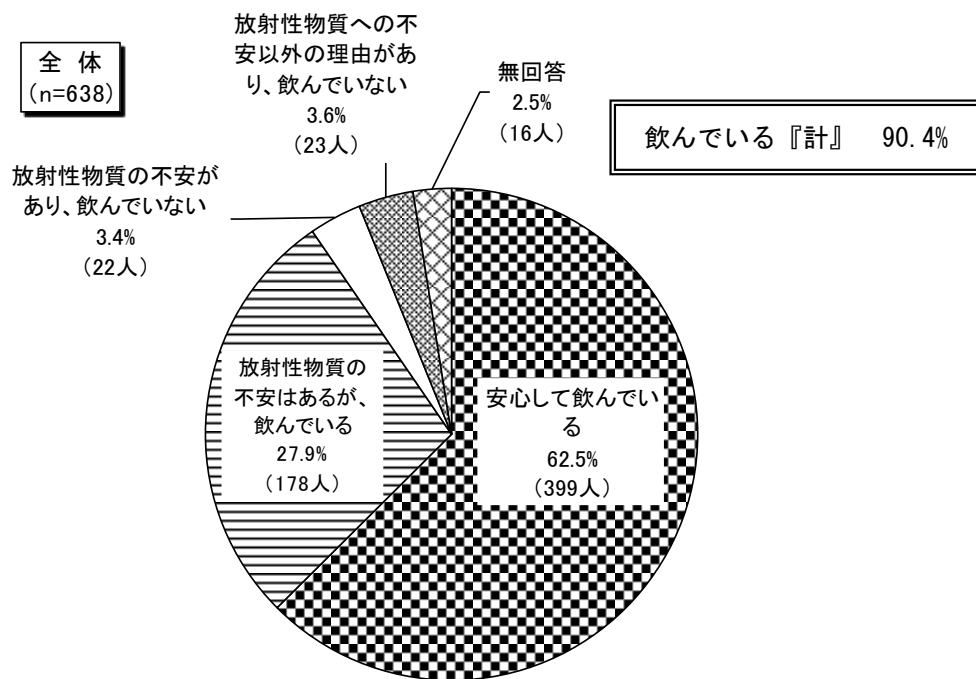
水に触れて親しんでいる場所は「身近な河川」(37.0%)が最も多く、3割台になっている。以下、「水田」(27.7%)、「公園」(23.7%)が2割台、「湖沼、沼」(18.5%)、「海」(16.3%)、「溪流、滝」(15.0%)、「水路、お堀」(12.7%)が1割台となっている。また、「特にない」が20.8%となっている。

7. 水道水の放射性物質検査について

(1) 水道水を安心して飲んでいるかの有無

問 16 あなたは水道水を安心して飲んでいますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

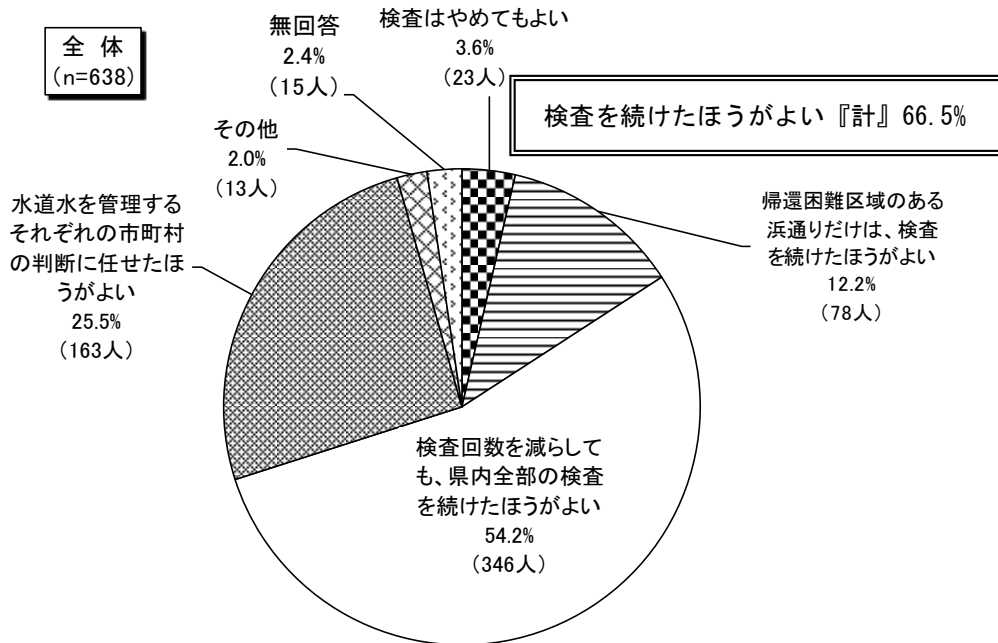


水道水を安心して飲んでいるかについては、「安心して飲んでいる」(62.5%)が最も多く、6割強となっている。これに「放射性物質の不安はあるが、飲んでいる」(27.9%)を合わせた『飲んでいる』計の割合は90.4%で、約9割となっている。

(2) 今後の「水道水の放射性物質検査」について

問 17 今後の「水道水の放射性物質検査」のあり方について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



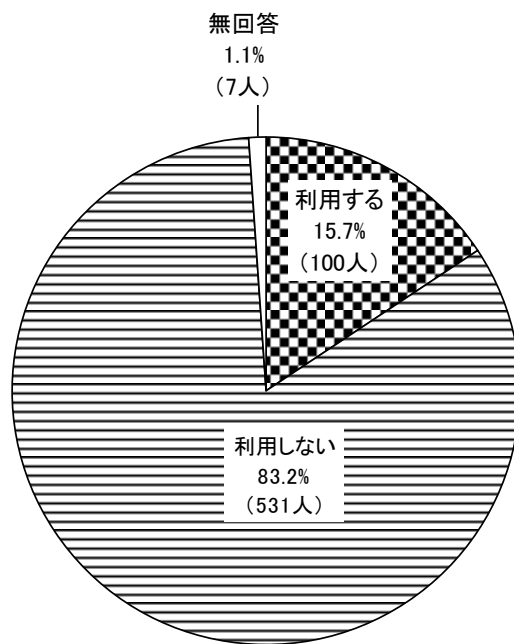
今後の「水道水の放射性物質検査」については、「検査回数を減らしても、県内全部の検査を続けたほうがよい」(54.2%)が最も多く、5割台となっている。これに「帰還困難区域のある浜通りだけは、検査を続けたほうがよい」(12.2%)を合わせた『検査を続けたほうがよい』計の割合は66.5%で、6割台となっている。以下、「水道水を管理するそれぞれの市町村の判断に任せたい」(25.5%)、「検査はやめてもよい」(3.6%)の順となっている。

8. 公共交通について

(1) 路線バス利用の有無

問 18 あなたは、普段、路線バスを利用しますか。
いずれかに○をつけてください。

全体
(n=638)



普段、路線バスを利用するかについては、「利用しない」(83.2%)が8割強で、「利用する」(15.7%)は1割台となっている。

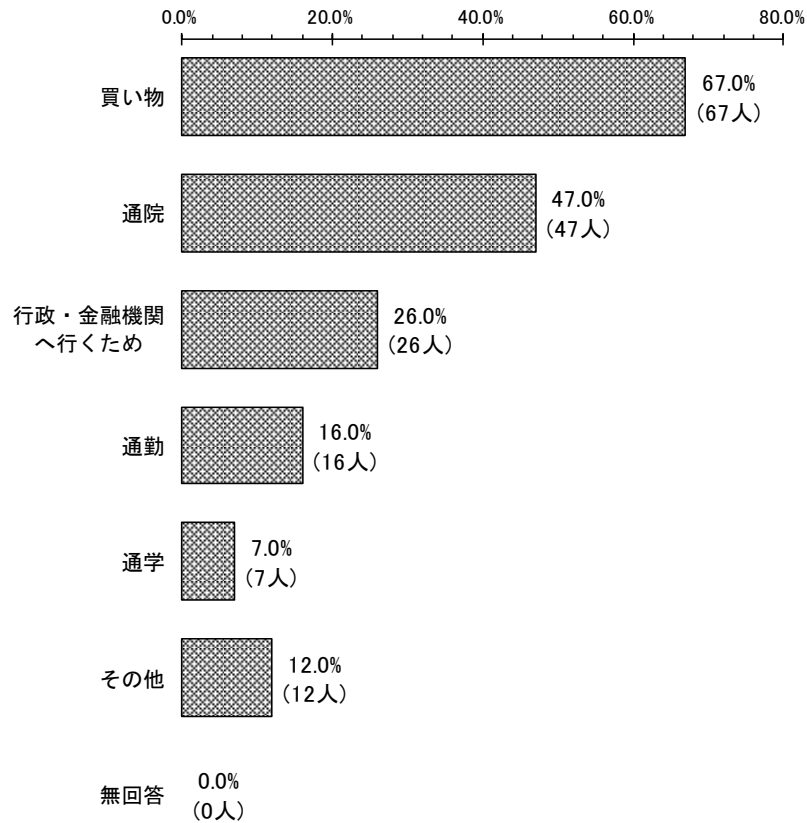
(2) 路線バスの利用目的

(問 18 で、「1 利用する」とお答えの方にお尋ねします。)

問 18-1 利用する目的は何ですか。

あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=100)



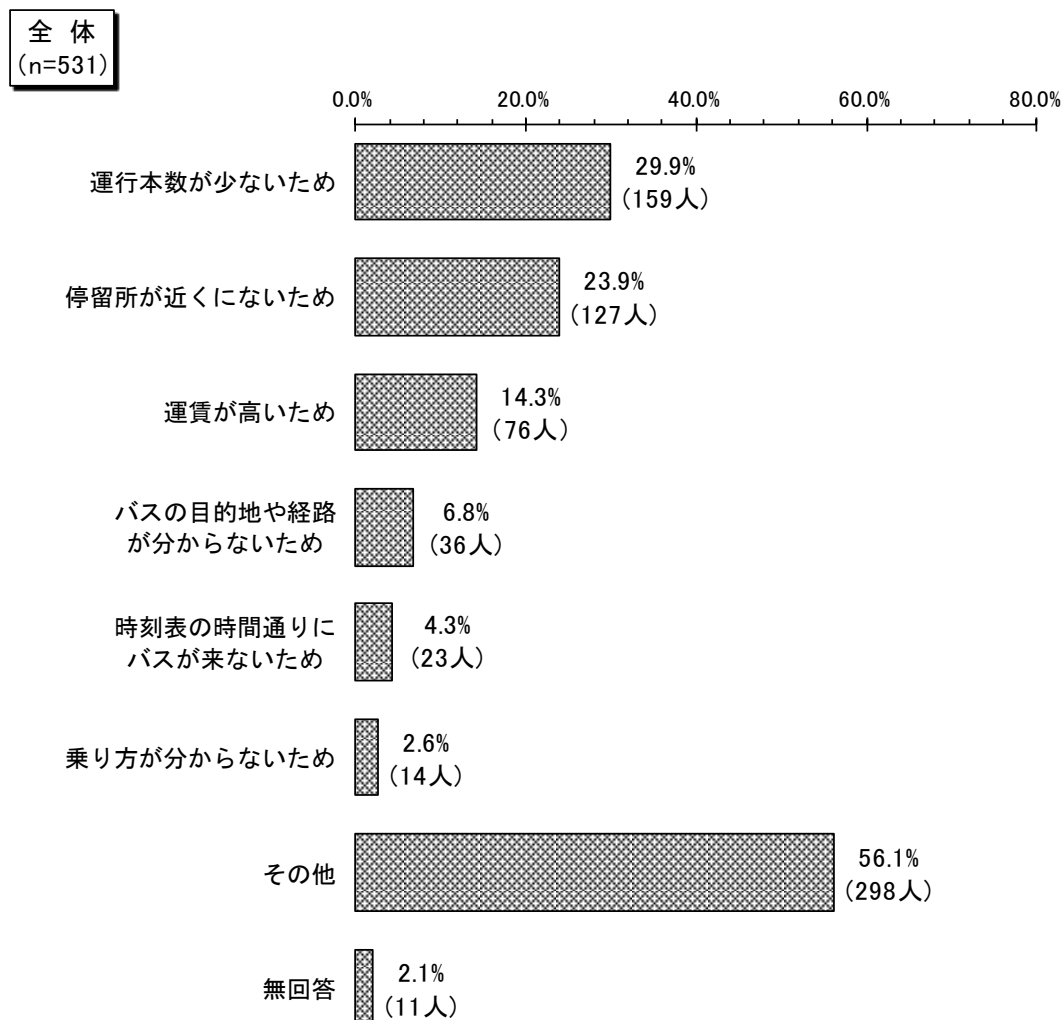
路線バスの利用目的は、「買い物」(67.0%)が最も多く、6割台になっている。以下、「通院」(47.0%)が4割台、「行政・金融機関へ行くため」(26.0%)が2割台、「通勤」(16.0%)が1割台となっている。

(3) 路線バスを利用しない理由

(問 18 で、「2 利用しない」とお答えの方にお尋ねします。)

問 18-2 利用しない理由は何ですか。

あてはまるものいくつかでも○をつけてください。(複数回答可)

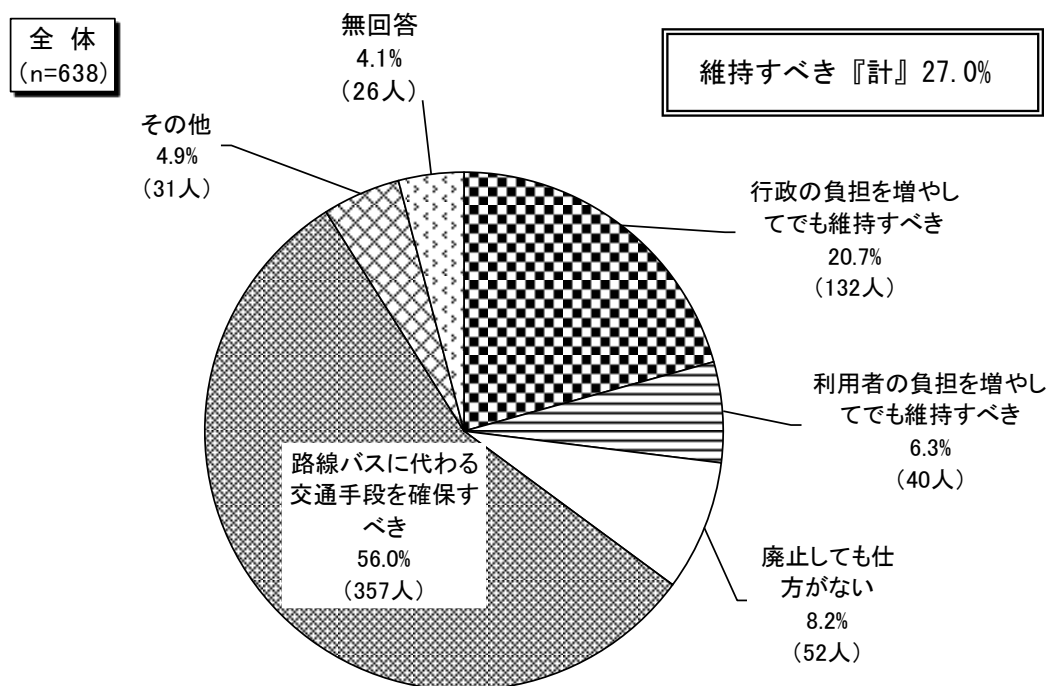


路線バスを利用しない理由については、「運行本数が少ないため」(29.9%)の割合が最も高く、約3割となっている。以下、「停留所が近くにないため」(23.9%)が2割台、「運賃が高いため」(14.3%)が1割台となっている。

また、「その他」(56.1%)の割合は、5割台となっている。

(4) 利用者の少ない路線バスについて

問 19 利用者の少ない路線バスのあり方について、あなたはどのように考えますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



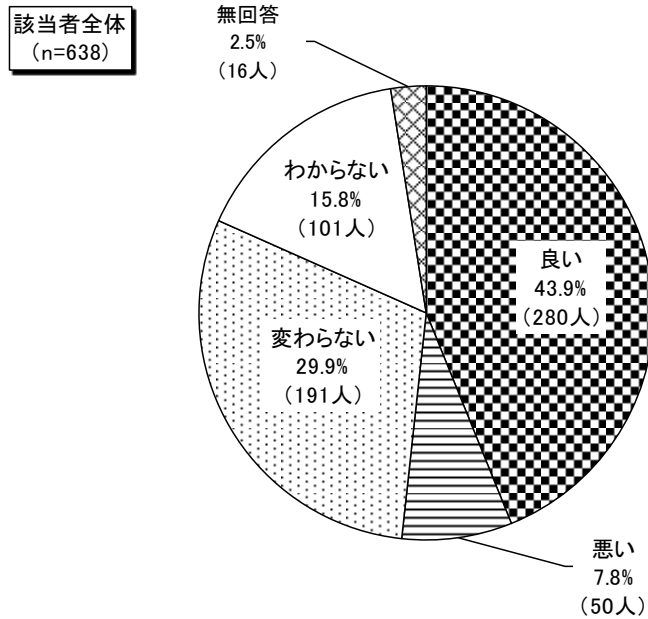
利用者の少ない路線バスについて、「路線バスに代わる交通手段を確保すべき」(56.0%)が最も多く、5割台となっている。「行政の負担を増やしてでも維持すべき」(20.7%)は約2割、これに「利用者の負担を増やしてでも維持すべき」(6.3%)を合わせた『維持すべき』計の割合は27.0%で、3割弱となっている。

9. 地域社会の安全・安心（治安）について

（1）現在の治安状況

問 20 現在あなたが住んでいる地域（仮設住宅・借り上げ住宅も含む）の治安は良いと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



現在の居住地の治安状況が「良い」（43.9％）と思う人は4割台となっている。

一方、治安状況が「悪い」（7.8％）と思う人は1割未満となっている。

また、「変わらない」（29.9％）が約3割となっている。

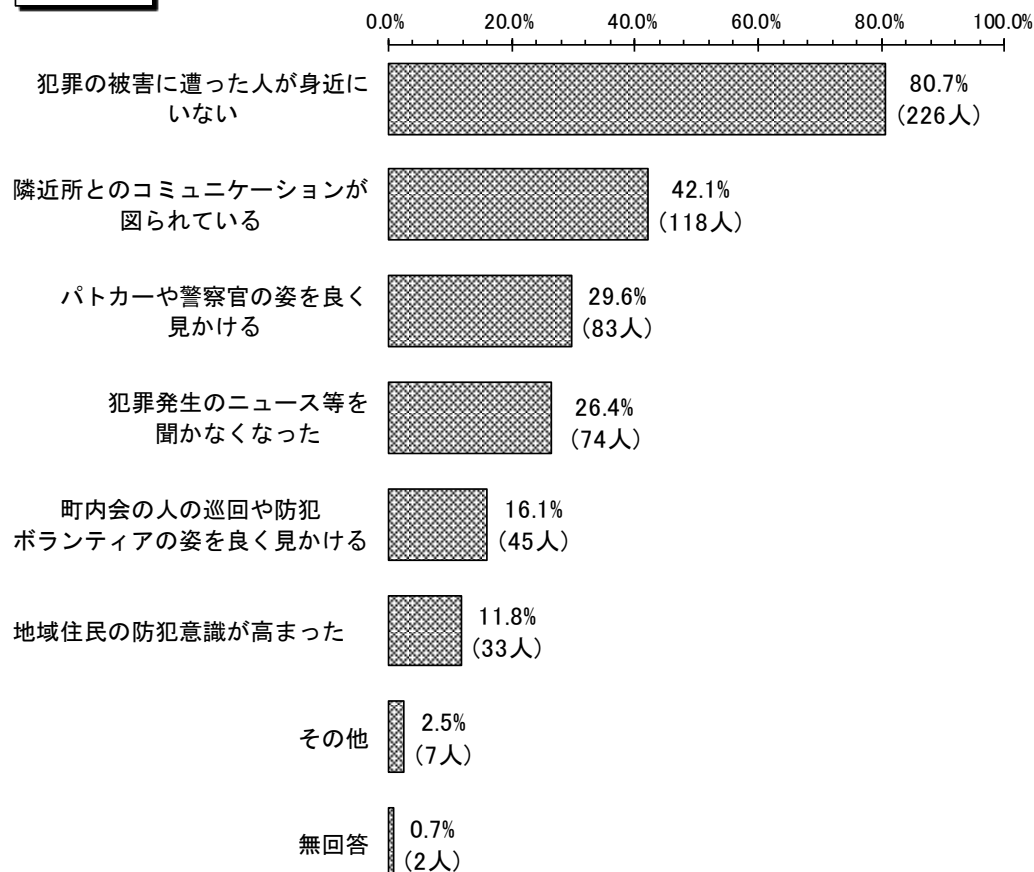
(2) 治安状況が良いと思う理由

(問 20 で、「1 良い」とお答えの方にお尋ねします。)

問 20-1 良いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

該当者全体
(n=280)



治安状況が良いと思う理由は、「犯罪の被害に遭った人が身近にいない」(80.7%)が最も多く、約8割となっている。以下、「隣近所とのコミュニケーションが図られている」(42.1%)が4割台、「パトカーや警察官の姿を良く見かける」(29.6%)が約3割、「犯罪発生のニュース等を聞かなくなった」(26.4%)が2割台、「町内会の人や防犯ボランティアの姿を良く見かける」(16.1%)、「地域住民の防犯意識が高まった」(11.8%)が1割台で続いている。

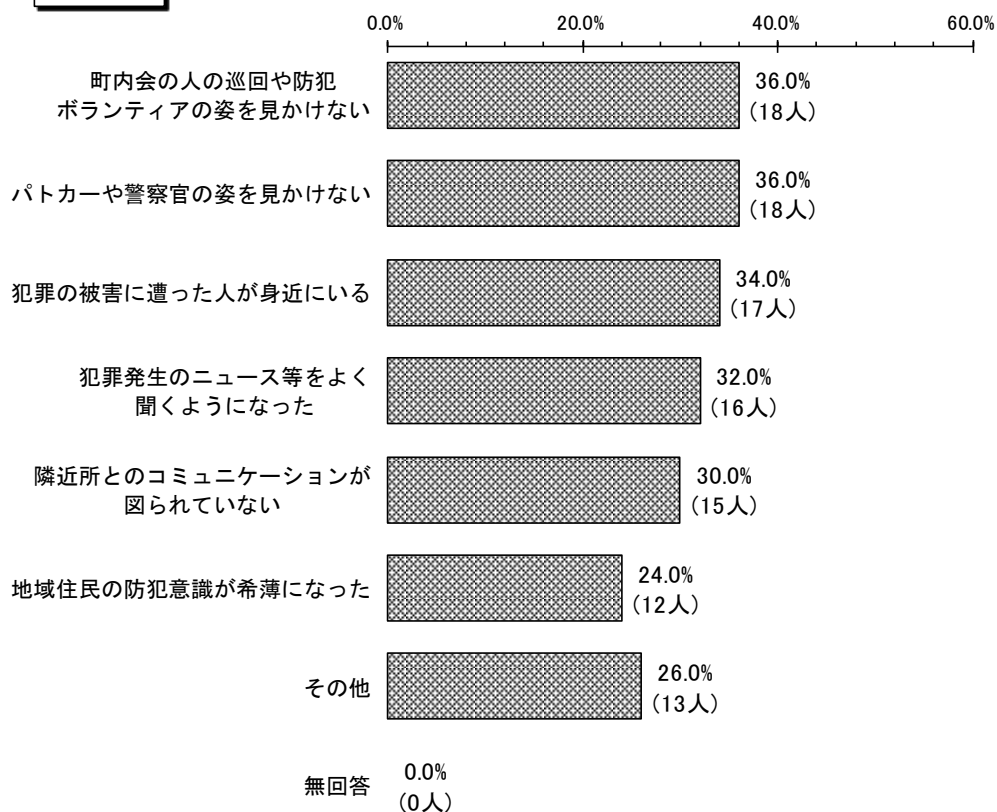
(3) 治安状況が悪いと思う理由

(問 20 で、「2 悪い」とお答えの方にお尋ねします。)

問 20-2 悪いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

該当者全体
(n=50)

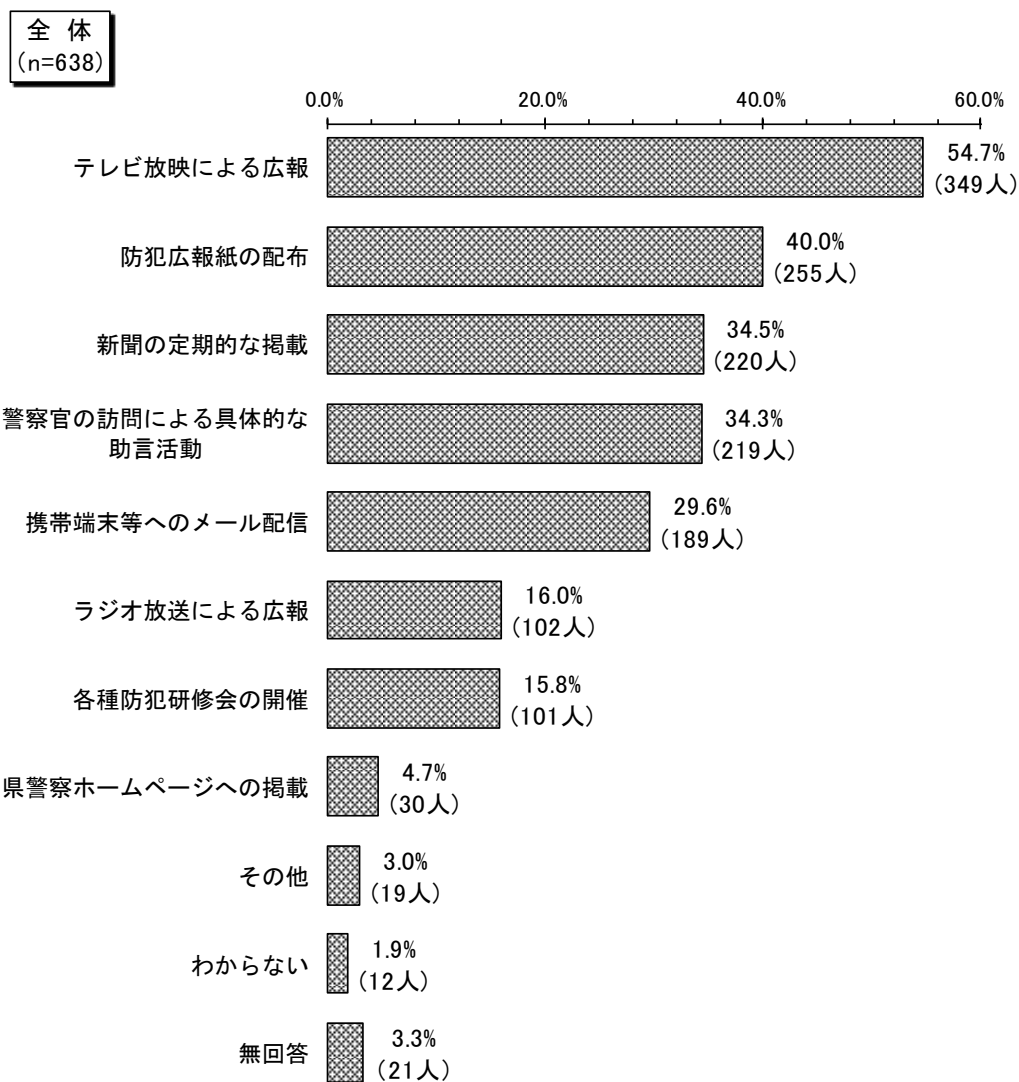


治安状況が悪いと思う理由は、「町内会の人や防犯ボランティアの姿を見かけない」と「パトカーや警察官の姿を見かけない」(各 36.0%) で最も高くなっている。以下、「犯罪の被害に遭った人が身近にいる」(34.0%)、「犯罪発生ニュース等をよく聞くようになった」(32.0%)、「隣近所とのコミュニケーションが図られていない」(30.0%) が3割台、「地域住民の防犯意識が希薄になった」(24.0%) が2割台で続いている。

(4) 犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供手段

問 21 犯罪の発生状況や犯罪を未然に防止する方法等の情報について、どのような形で提供されるのがよいと思いますか。

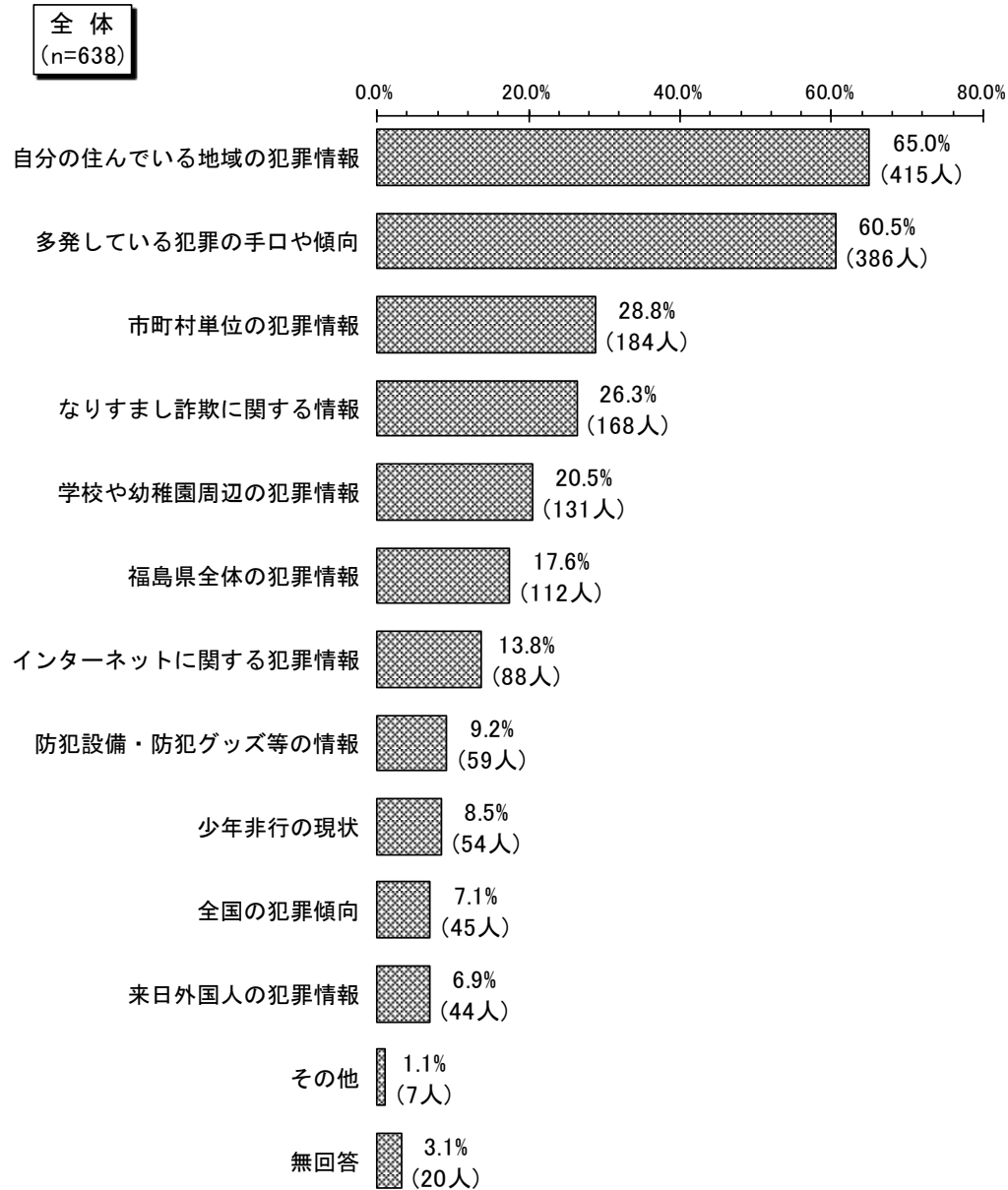
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供方法については、「テレビ放映による広報」(54.7%)が最も多く、5割台となっている。以下、「防犯広報紙の配布」(40.0%)が4割、「新聞の定期的な掲載」(34.5%)と「警察官の訪問による具体的な助言活動」(34.3%)が3割台、「携帯端末等へのメール配信」(29.6%)が約3割、「ラジオ放送による広報」(16.0%)と「各種防犯研修会の開催」(15.8%)が1割台で続いている。

(5) 犯罪に関して知りたい情報

問 22 犯罪に関するどのような情報が知りたいですか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



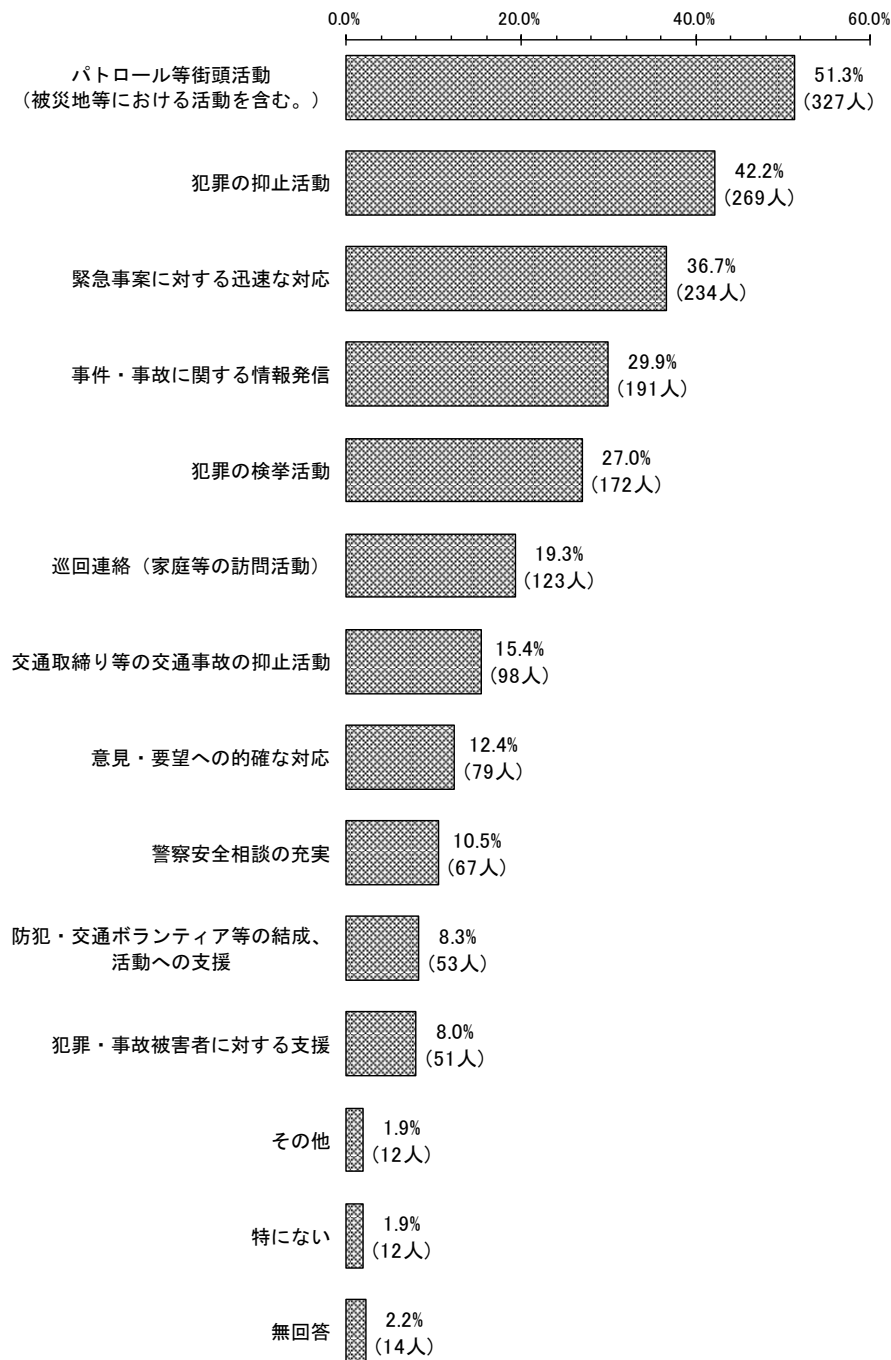
犯罪に関して知りたい情報は、「自分の住んでいる地域の犯罪情報」(65.0%)が最も多く、6割台となっている。次いで、「多発している犯罪の手口や傾向」(60.5%)が約6割で続いている。以下、「市町村単位の犯罪情報」(28.8%)、「なりすまし詐欺に関する情報」(26.3%)、「学校や幼稚園周辺の犯罪情報」(20.5%)が2割台、「福島県全体の犯罪情報」(17.6%)、「インターネットに関する犯罪情報」(13.8%)が1割台となっている。

(6) 警察に強化してほしい活動

問 23 安全・安心な地域社会をつくるため、警察にどのような活動を強化してほしいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=638)



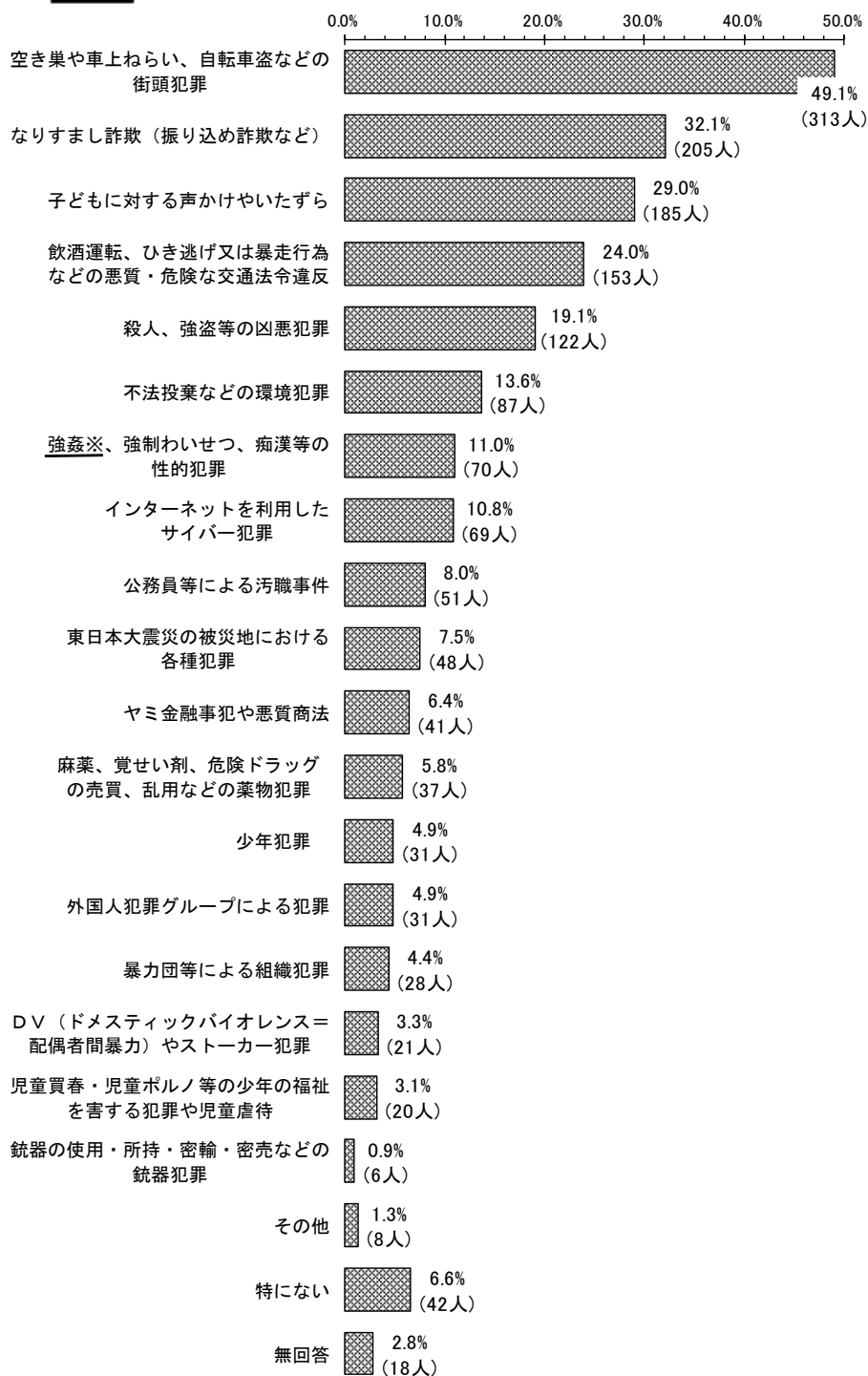
警察に強化してほしい活動は、「パトロール等街頭活動（被災地等における活動を含む。）」（51.3%）が最も多くなっている。以下、「犯罪の抑止活動」（42.2%）が4割台、「緊急事案に対する迅速な対応」（36.7%）が3割台、「事件・事故に関する情報発信」（29.9%）、「犯罪の検挙活動」（27.0%）が2割台、「巡回連絡（家庭等の訪問活動）」（19.3%）、「交通取締り等の交通事故の抑止活動」（15.4%）、「意見・要望への的確な対応」（12.4%）、「警察安全相談の充実」（10.5%）が1割台となっている。

(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪

問 24 現在お住まいの地域で最も不安を感じ、今後重点的に取り締まってほしい犯罪は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=638)



※平成 29 年 7 月 13 日～強姦罪から強制性交等罪に名称変更

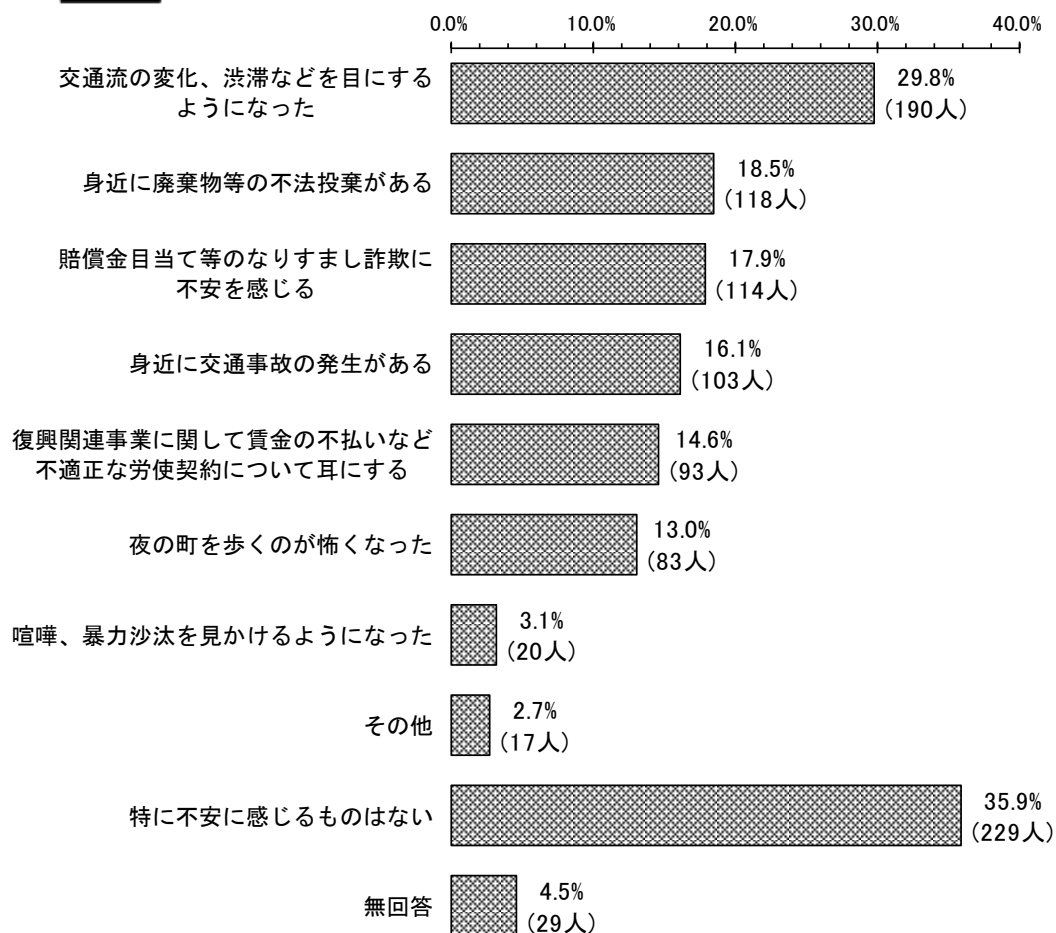
今後重点的に取り締まってほしい犯罪は、「空き巣や車上ねらい、自転車盗などの街頭犯罪」(49.1%)が最も多く、約5割となっている。以下、「なりすまし詐欺(振り込め詐欺など)」(32.1%)、「子どもに対する声かけやいたずら」(29.0%)、「飲酒運転、ひき逃げ又は暴走行為などの悪質・危険な交通法令違反」(24.0%)、「殺人、強盗等の凶悪犯罪」(19.1%)、「不法投棄などの環境犯罪」(13.6%)が続いている。

(8) 身近に感じる不安

問 25 震災から7年が経過しましたが、復興に伴い治安面で身近に感じる不安は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=638)



復興に伴い治安面で身近に感じる不安は、「交通流の変化、渋滞などを目にするようになった」(29.8%)が最も多くなっている。以下、「身近に廃棄物等の不法投棄がある」(18.5%)、「賠償金目当て等のならすまし詐欺に不安を感じる」(17.9%)、「身近に交通事故の発生がある」(16.1%)、「復興関連事業に関して賃金の不払いなど不適正な労使契約について耳にする」(14.6%)、「夜の町を歩くのが怖くなった」(13.0%)が1割台となっている。

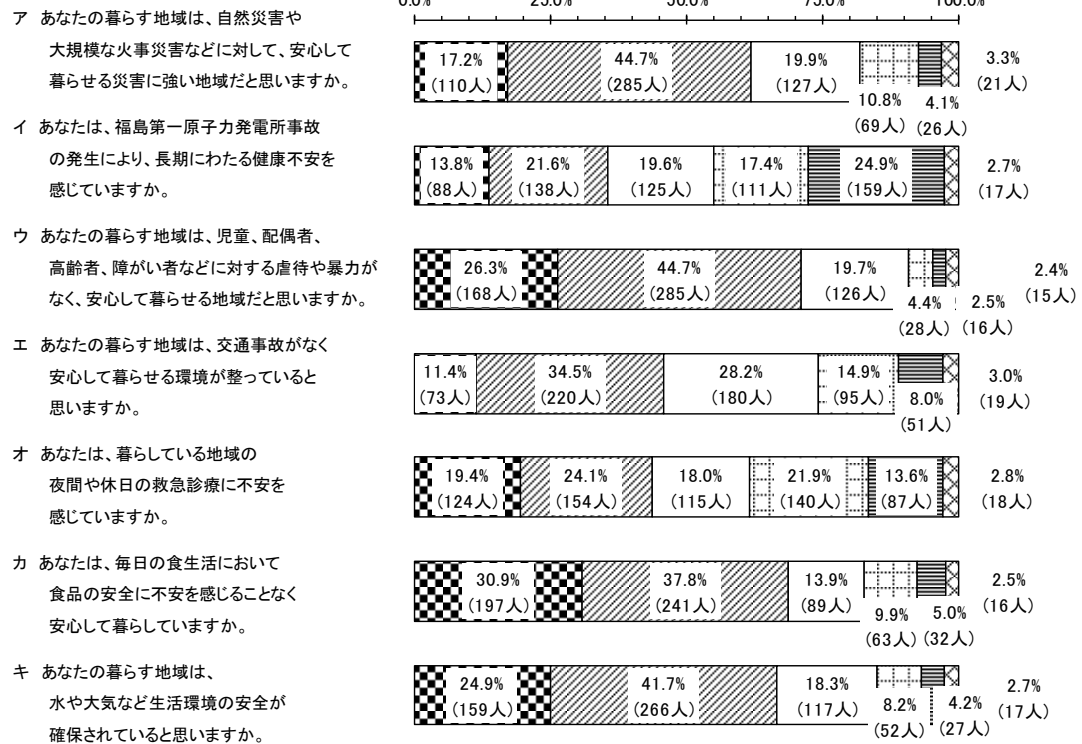
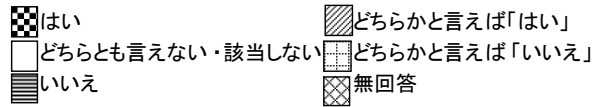
なお、「特に不安を感じるものはない」(35.9%)が、3割台となっている。

10. 安全で安心な県づくりについて

(1) 安全・安心の現状

問 26 次にあげたア～キの項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。
それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体
(n=638)



「はい」と回答した人の割合をみると、〈カ あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(30.9%)が最も高くなっている。次いで、〈ウ あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。〉(26.3%)、〈キ あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(24.9%)が続いている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈ウ あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。〉(71.0%)が最も高く、約7割となっている。以下、〈カ あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(68.7%)、〈キ あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(66.6%)と〈ア あなたの暮らす地域は、自然災害や大規模な火事災害などに対して、安心して暮らせる災害に強い地域だと思いますか。〉(61.9%)が6割台、〈エ あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。〉(45.9%)、〈オ あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(43.6%)が4割台、〈イ あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(35.4%)が3割台となっている。

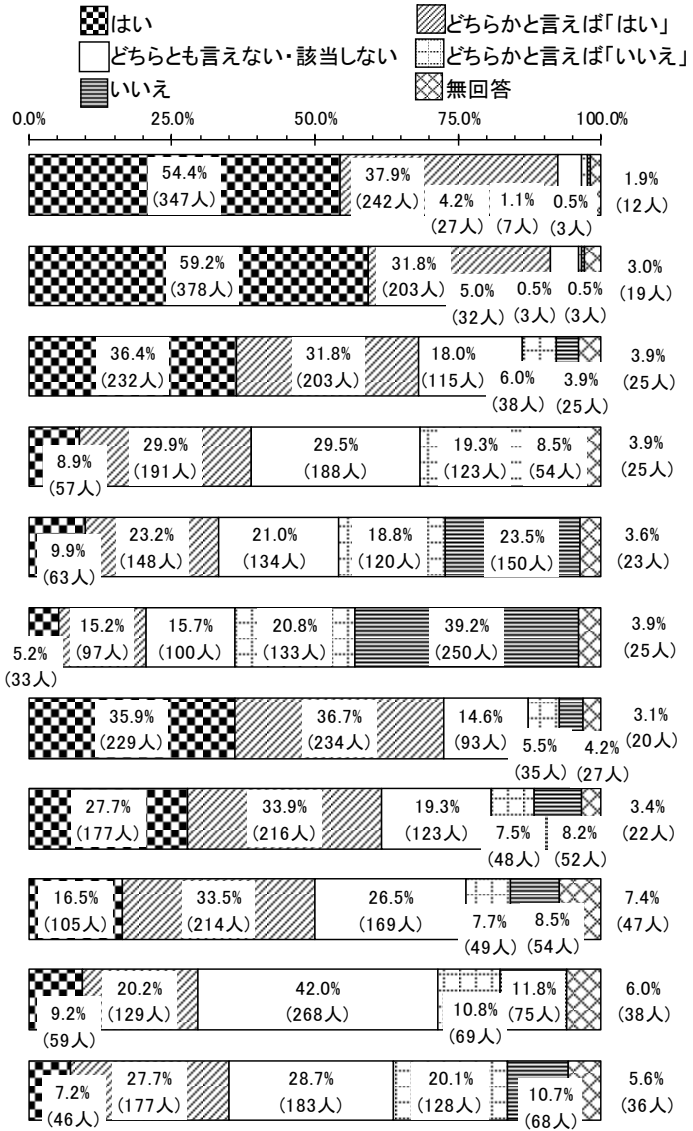
一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈イ あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(42.3%)が最も高く、4割強となっている。以下、〈オ あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(35.6%)が3割台、〈エ あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。〉(22.9%)が2割台となっている。

1.1. 県総合計画について

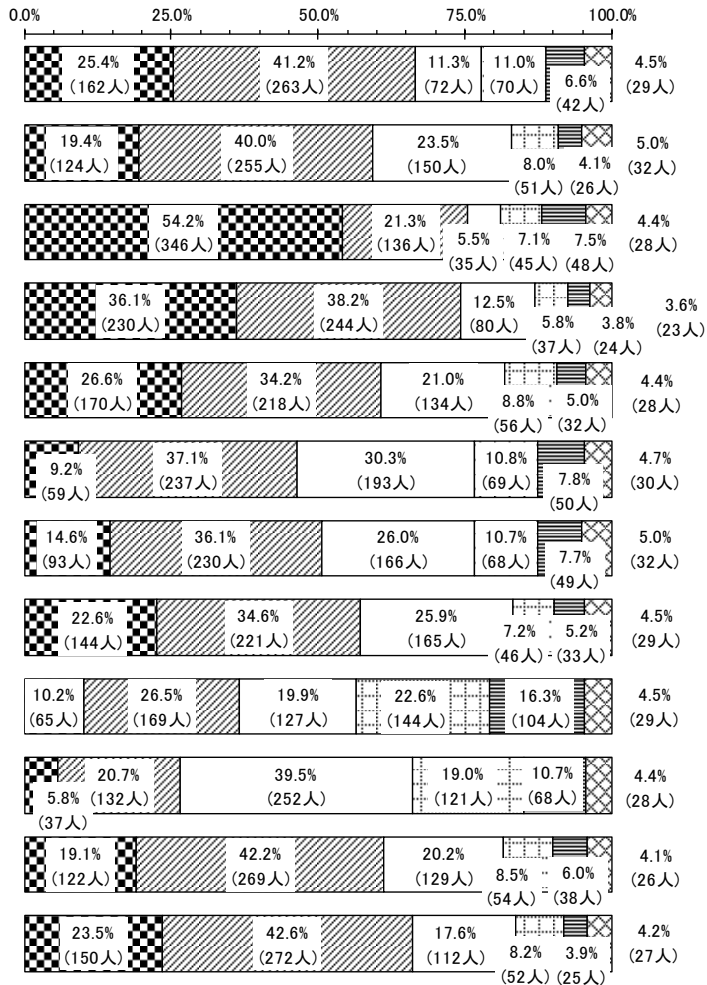
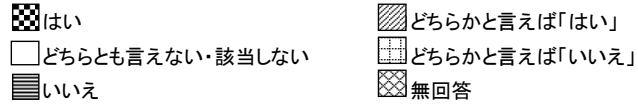
(1) 福島県の現状

問 27 次にあげたア～ヌの項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。
それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体
(n=638)



全体
(n=638)



「はい」と回答した人の割合は、〈イ あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いますか。〉(59.2%)が最も高く、約6割となっている。次いで、〈ア 福島県は、自然が豊かで、美しい景観を有する県であると思いますか。〉(54.4%)と〈セ あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(54.2%)が5割台で続いている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈ア 福島県は、自然が豊かで、美しい景観を有する県であると思いますか。〉(92.3%)が最も高く、9割強となっている。以下、〈イ あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いますか。〉(91.1%)、〈セ あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(75.5%)、〈ソ あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。〉(74.3%)、〈キ あなたは、地元産の食材を積極的に使用していますか。〉(72.6%)が7割台、〈ウ あなたは、福島県内で子育てを行いたいと思いますか(あなたが親の立場に立ったと仮定してご回答願います)。〉(68.2%)、〈シ あなたの住む地域は、身近なところで、必要な医療を受けることができる地域ですか。〉(66.6%)、〈ヌ あなたは、今住んでいる地域が住みやすいと思いますか。〉(66.1%)、〈ク あなたは、国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの(自然、特産品、観光、文化など)がありますか。〉(61.6%)、〈ニ あなたは、日頃、人と人の支え合いや絆を実感していますか。〉(61.3%)、〈タ あなたの生活空間は、放射線から安心して暮らすことができる空間ですか。〉(60.8%)が6割台となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈カ あなたは、住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していますか。〉(60.0%)が最も高く、6割となっている。以下、〈オ あなたは、文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していますか(鑑賞を含む)。〉(42.3%)が4割台、〈ト あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食料の備蓄などを行っていますか。〉(38.9%)が3割台で続いている。

Ⅲ 調査票様式

IV 過去に実施した県政世論調査項目一覧

平成29年度（9項目26問） 標本数 1,300 回収率 54.7%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 福島イノベーション・コースト構想について
- (3) 買い物環境について
- (4) 水に関する意識について
- (5) 農林水産業について
- (6) チャレンジふくしま県民運動について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成28年度（7項目26問） 標本数 1,300 回収率 54.3%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 農林水産業について
- (3) 生物多様性について
- (4) 高校教育について
- (5) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (6) 安全で安心な県づくりについて
- (7) 県総合計画について

平成27年度（8項目28問） 標本数 1,300 回収率 54.8%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 青少年の健全育成について
- (4) ユニバーサルデザインについて
- (5) 農林水産業について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成26年度（8項目28問） 標本数 1,300 回収率 57.0%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 食育について
- (4) 農林水産業について
- (5) 廃棄物対策について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成25年度（8項目24問） 標本数 1,300 回収率 61.8%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 救急医療について
- (4) 農林水産業について
- (5) 生物多様性について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成24年度（9項目33問） 標本数 1,300 回収率 60.7%

- (1) 環境について
- (2) 水に関する意識について
- (3) 子育て支援策について
- (4) 青少年の健全育成について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) ジェネリック医薬品（後発医薬品）について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成23年度（7項目24問） 標本数 1,300 回収率 63.4%

- (1) 震災時及び現在における情報収集について
- (2) 男女共同参画の視点からの災害対応について
- (3) 心の健康について
- (4) 震災後の商業環境について
- (5) 芸術文化・スポーツ活動について
- (6) 震災後の県内の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて

平成22年度（8項目30問） 標本数 1,300 回収率 60.8%

- (1) 福島県農林水産物の消費拡大について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 生活習慣病予防対策について
- (4) 水について
- (5) 生物多様性について
- (6) 廃棄物対策について
- (7) 福島県総合計画について
- (8) 安全で安心な県づくりについて

平成21年度（7項目30問） 標本数1,300 回収率65.1%

- (1) 福島県の農業・農村の振興について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 食育について
- (4) 環境について
- (5) 青少年の健全育成について
- (6) 土地利用について
- (7) 福島県の新しい総合計画について

平成20年度（5項目28問） 標本数1,300 回収率64.2%

- (1) 安心・安全な県産農産物の生産拡大について
- (2) 地域社会の安全、安心について
- (3) 保健福祉関連事業について
- (4) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について
- (5) ユニバーサルデザインについて

平成19年度（5項目23問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 「ふくしま食と農の絆づくり運動」について
- (2) 警察活動について
- (3) 「がん」に関する意識について
- (4) 県庁の組織名及び職名について
- (5) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成18年度（6項目21問） 標本数1,300 回収率58.5%

- (1) 犯罪に関する意識について
- (2) 化学物質について
- (3) 有機農産物に対する認知度と消費動向について
- (4) 食育について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成17年度（6項目24問） 標本数1,300 回収率59.3%

- (1) 森林と県民生活について
- (2) 水について
- (3) 電子社会の推進と現状について
- (4) 運動・スポーツに関する実態について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成16年度（5項目27問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 安全に安心して暮らせる地域社会について
- (2) 地域温暖化防止のためのエコライフについて
- (3) 心の健康について
- (4) 文化に関する意識について
- (5) “うつくしま、ふくしま。”県民運動について

平成15年度（5項目34問） 標本数1,300 回収率62.2%

- (1) お米の消費実態と福島米への要望について
- (2) 交通安全教育について
- (3) 環境保全への取り組みについて
- (4) エネルギー政策について
- (5) 県政への要望について

平成14年度（4項目30問） 標本数1,000 回収率60.5%

- (1) 地産地消について
- (2) IT革命の現状と課題について
- (3) ボランティア活動について
- (4) 食品の安全確保について

平成13年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率58.0%

- (1) ユニバーサルデザインについて
- (2) “うつくしま、ふくしま。”県民運動について
- (3) 環境保全について
- (4) 県民生活と森林づくり運動について
- (5) 新エネルギーについて
- (6) 人権問題について

平成12年度（4項目31問） 標本数1,000 回収率62.2%

- (1) 行政情報化について
- (2) 魅力ある観光地づくりについて
- (3) うつくしま未来博について
- (4) 運動・スポーツについて

平成11年度（6項目34問） 標本数1,000 回収率64.4%

- (1) 福島県の教育について
- (2) 高齢社会について
- (3) 住民参加について
- (4) 行財政改革について
- (5) 土地利用について

(6) 県への要望について

平成10年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率66.9%

- (1) 子育てについて
- (2) 生涯学習について
- (3) 安全な生活について
- (4) 魅力ある観光地づくりについて
- (5) 地方分権について
- (6) 県への要望について

平成30年度

県政世論調査

結果報告書

〈概要版〉

福島県 総務部 県民広聴室

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話 (024) 521-7013